



Annual Report **2017**

学校法人東京電機大学 平成28年度 学園活動の概況

# TDU 東京電機大学

## 学園の使命

学校法人東京電機大学は

大学、高等学校、中学校の経営を通し、

100年を超えて培ってきた歴史と伝統をもとに、

次世代を担う技術者を中核とした

人材を育成することにより、

社会に貢献することを使命としています。

その責任は、在学している学生・生徒、

ご父母、卒業生、産業界、社会全体、

そして未来に負います。

# TDU

学校法人東京電機大学 総務部（企画広報担当）

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

Tel.03-5284-5125 Fax.03-5284-5180 E-mail : keiei@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



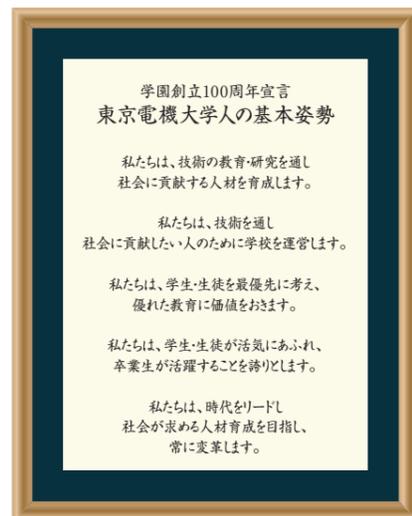
# 輝き続ける学園を目指す

～原点を踏まえ飛躍、強い学園を創造する年～



学校法人東京電機大学

理事長 加藤 康太郎



## 5つの行動規範

1. すべてに礼節を重んず
2. 本学は一人ひとりの教職員によって構成される組織体である
3. 額に汗し、努力の結果以外の報酬は受けない
4. すべての判断尺度は「正しいかどうか」、「公正であるかどうか」である
5. 常に原理原則に立ち、凛然と事を決す

人・モノ・情報のグローバル化の進展、少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少など、学園を取り巻く環境は大きく変化し、日本の国際競争力の低下が危ぶまれるなかで、大学をはじめ教育機関の役割と責任は大きいと感じます。なかでも、2018年を境に18歳人口が減っていく「2018年問題」は、多くの大学にとって喫緊の課題です。先人が築いてきた輝かしい歴史と伝統に支えられ、堅調な発展を遂げてきた本学園も例外ではありません。

これからの時代に求められるのは、変化する社会のニーズに的確に対応できる学園です。変化が激しく厳しい経営環境だからこそ、挑戦する価値があり、勝ち抜くチャンスがあると言えます。大切なのは、失敗を恐れずにチャレンジする精神と言えるでしょう。

「生き残り」から「勝ち残り」への転換を図る本学は、10年後の2023年を見据えた中長期計画「TDU Vision 2023」を2014年に策定しました。これは、時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現に向けて、本学にしかできない特色ある取り組みの推進を目指すものです。

そのための新しいチャレンジはすべて、建学の精神である「実学尊重」と教育・研究理念である「技術は人なり」の考え方に根差しています。そして本学が一貫して目指してきたのは「技術で社会に貢献する人材の育成」であり、これこそが強みなのです。創立当初からの技術者教育への熱い思いと学生・生徒主役、教育最優先の精神は、これまでも、これからも変わりません。その成果として21万人を超える卒業生が、世界および日本の産業界をはじめ各界で活躍し、その活躍が本学の「就職に強い大学」としての社会的評価に現れています。

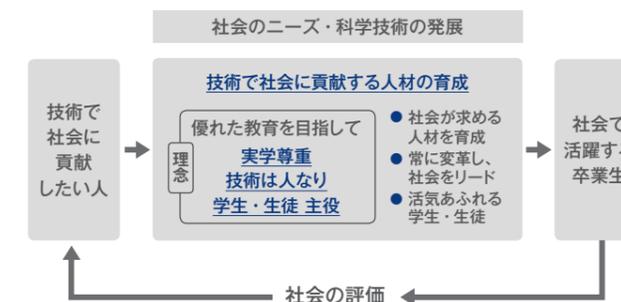
中長期計画の3年目を終え、事業推進が本格化しています。今後はPDCAサイクルの循環を着実に図り、さらなる事業推進を図るとともに、全教職員が分かち合いながら、学園の理

念や組織目標を共有、また役割認識や協力により大きく前進する考えです。そしてすべての前提として、財政健全化が重要課題であることに変わりはありません。「財の自由なくして学の自由なし」です。無駄を排除する一方で、他校に追いつくのではなく、本学に必要なものを追求し、さらに充実させていきます。もちろん学校といえども組織体である限り、さらなるガバナンス体制の確立が求められるのは当然でしょう。

中長期計画4年目となる2017年は、学園創立110周年を迎え、「原点を踏まえ飛躍、強い学園を創造する年」として、様々なチャレンジが続きます。4月にはシステムデザイン工学部と工学部3学科を新設するとともに、東京千住キャンパス5号館を開設、特に実学尊重を象徴する「ものづくりセンター」を設置した他、新たな地域貢献施設としてスポーツクラブ「ルネサンス」等が開業しました。さらに2018年4月の理工学部、工学部第二部の改編、情報環境学部の千住移転にむけ準備を進めていきます。

学校は多くの関係者の皆さまに支えられる存在です。学園創立100周年宣言ではそうした皆さまを含み「東京電機大学人の基本姿勢」(P.1掲載)を宣言しました。東京電機大学の未来は私たちの手の中にあります。「東京電機大学人」として深い愛校心を原動力に、「超我の奉仕」の精神で本学園のさらなる飛躍に尽力してまいります。

## 学園のスキーム図



理事長メッセージ

## 輝き続ける学園を目指す

01

～原点を踏まえ飛躍、強い学園を創造する年～

03

創立から今日まで  
—私たちの理念

05

基本情報・経営体制

特集1

TDU Vision 2023

07

学園創立110周年  
記念事業

特集2

卒業生スペシャルインタビュー

11

未来をクリエイトする大学  
株式会社本田技術研究所 上席研究員  
重見 聡史 さん

学長インタビュー

新しい発想で未来社会に貢献する

13

イノベーションの  
担い手を育成

15

事業報告  
2016年度の取り組みと成果

25

財務情報

33

Information &amp; DATA

創立から今日まで  
— 私たちの理念

# 技術で社会に貢献する人材の育成を目指して

## 若き技術者が技術者のための学校を創立

本学園は1907(明治40)年、「社会の第一線で活躍できる技術者を育成し、工業の発展を目指す」を建学の精神として、東京・神田に電機学校として創立されました。

当時は、西洋文明の導入により優れた技術や最新の機械が次々と輸入されてきましたが、これを駆使できる技術者がわずかという状況でした。若い技術者であった創立者の廣田精一、扇本眞吉は、このような状況は国の発展に大きな障害となると考え、工業教育の普及こそが国家発展の基であるとの識見にたち、技術を学ぼうとする者に広く門戸を開きました。

### 創立者

#### 廣田 精一(1871~1931)

広島県生まれ。1896年東京帝国大学工科大学卒業。高田商會に在籍のままドイツシーメンス・ハルスゲ電気会社入社。その後欧米諸国を視察して帰国。1907年扇本眞吉とともに私立電機学校設立。1914年オーム誌創刊、1916年組織を財団法人に改め、総務理事に就任。1921年現神戸大学工学部を創立。電気自動車の開発にも力を注ぎ、エジソンにも面会した。



#### 扇本 眞吉(1875~1942)

岐阜県生まれ。1902年東京帝国大学工科大学卒業。ドイツシーメンス・ハルスゲ電気会社、深川電燈株式会社、江ノ島電気鉄道株式会社等に奉職。1907年廣田精一とともに私立電機学校を設立し、初代校長として尽力。1916年組織を財団法人に改め財務理事に就任。専心その任にあたる。



## 「実学尊重」「学生・生徒主役」「技術は人なり」

### 3つの主義

#### 生徒第一主義

「学校の存在も細大の校務も、生徒を前提とする。(中略)生徒に對しよい学校にすることを根本義とした」

#### 教育最優先主義

「叱ることは良くない。教師の最も注意すべきことは、自分が偉いように錯覚し、また自分が生徒より長年かかって現在の学力があることを忘れていのである。(中略)教師であれば初心者にもわかるように説明する方法を考えよ。それができなければ、現代に生きる資格がないと反省せよ。叱る先生には先生たる資格はない。先生にはただ、愛を必要とするのである。懇切親愛こそが、先生の価値である」

#### 実学尊重

工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指した。そのために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作するなど、充実に努めた。

### 今につながる創立時の教育理念 — 創立者の言葉から

「考える、とは何かと問い、考える、とは何かと考えつづける。これが、すなわち教育である。ティーチング・ラーニング(一方的に教師が知識を教え、生徒はそれを受けてただ反復するだけの詰め込み教育)などエデュケーションの名に値せず」

「知識は紙によって伝えられる。学生は紙に書かれた知識をどれだけ記憶したか、によって試されるのではなく、その知識の先に何があるのか、それをどこまで透察したかによって試されなければならない」  
「現代社会に試験制度は欠かせないであろうが、しかしそれは必要悪であることを自覚せよ。大事なことは試験制度を一人歩きさせてはいけないということだ。試験制度が一人歩きするようになれば、人が試験をつくるのではなく、試験が人を作るようになる」

### 「技術は人なり」

「私は技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に「人」にならなければならない。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」

「技術を構成する要素には、それぞれの自然法則が応用されるのでありますが、これを構成して大きな総合技術を完成するには、技術者の構想を多分に必要とするのであります」

「専門学科学科の精選充実を図るとともに、実験及び実習を重視する。特に従来の学校教育の習得偏重を排し、技術者として実地に測する物の製作技術を修得し、且つ勤労の精神を涵養する目的を以て已に実習工場を設けてあるが、新制大学としても益々之を拡充する」(大学設置認可申請書より)

※「」内は本学園の年史等より抜粋(出典記載のあるものを除く)

## 大学設立

1949(昭和24)年、民主的社会人としての教養を涵養するとともに広く技術に関する学芸を教授研究し、学生の智的・道徳的・応用的能力を展開させることを目的に、「実学尊重」を建学の精神として、「東京電機大学」を設立しました。

初代学長には、ファックスの育ての親で日本の十大発明家に数えられる丹羽保次郎博士を迎えました。丹羽博士の「技術は人なり」は大学の教育・研究理念として、また中学校・高等学校の校訓「人間らしく生きる」として、今日に受け継がれています。



学園創立100周年記念式典。2007(平成19)年9月11日。



2012(平成24)年開設当初の東京千住キャンパス。



▲丹羽保次郎博士が開発したファックス。1928(昭和3)年、NE式電送装置実用化に成功。

◀文化勲章受章時の丹羽先生

### 初代学長

#### 丹羽 保次郎(1893~1975)

三重県生まれ。1916年東京帝国大学工科大学電気工学科卒業。通信省電気試験所、日本電気株式会社に勤務。1924年に欧米を視察し帰国後、写真電送の研究に取り組み有線写真電送装置を発明した。日本初の写真電送装置(ファクシミリ)として、昭和天皇即位式のニュース写真の電送に用いられ優れた成績を上げ、世界で広く普及。さらに無線写真電送の研究に着手。1929年、東京・伊東間で日本初の長距離無線写真電送の実験に成功。1949年東京電機大学の初代学長に就任。1955年(社)テレビジョン学会初代会長。1959年に文化勲章、1971年に勲一等瑞宝章を授与される。日本の十大発明家に数えられる。

### 沿革

- 1907 電機学校を東京・神田に創立(創立者:廣田精一・扇本眞吉)。「生徒第一主義、教育最優先主義、実学尊重」を基本方針とする。
- 1914 科学技術誌「オーム」発刊(現在のオーム社に発展)。
- 1924 ラジオ実験放送を開始(NHKは1925年実験放送を開始)。
- 1928 丹羽保次郎博士が写真伝送(現在のファックス)に成功。本学実演室で、高柳健次郎氏による日本初のテレビ公開実験。
- 1948 電機学園高等学校開学(現・東京電機大学高等学校)。東京・秋葉原に秋葉原電気街誕生。本学が育ての親と言われる。
- 1949 東京電機大学開設、工学部第一部設置、初代学長・丹羽保次郎博士の「技術は人なり」を教育・研究理念に。建学の精神は「実学尊重」。
- 1950 東京電機大学短期大学開設(夜間)。
- 1952 工学部第二部設置(夜間)。
- 1958 大学院開設(日本初の夜間大学院)。
- 1962 第2代学長阪本捷房博士が日本ME学会(現・日本生体医工学会)を創立。
- 1970 パソコン創成期に先導的役割を果たす。
- 1977 理工学部開設(埼玉鳩山キャンパス)。
- 1990 千葉ニュータウンキャンパス開設。
- 1992 東京小金井キャンパスを開設し高等学校移転。
- 1996 東京電機大学中学校開校。



- 2000 東京電機大学TLO(技術移転機関)が承認される。
- 2001 情報環境学部を千葉ニュータウンキャンパスに開設。
- 2006 大学院先端科学技術研究科を開設。
- 2007 学園創立100周年。未来科学部開設、全学的改編を実施。
- 2010 (財)大学基準協会による大学基準適合認定。
- 2012 東京千住キャンパス開設。
- 2017 学園創立110周年。システムデザイン工学部開設、大学基準適合認定。

# 基本情報

## 学校法人東京電機大学の概要

2017(平成29)年5月現在

創 立：1907(明治40)年9月11日  
 理 事 長：加藤 康太郎  
 監査法人：新日本有限責任監査法人  
 教職員数：617名(教員数435名、職員数182名)  
 設置学校：東京電機大学

キャンパス所在地：

**東京千住キャンパス** 東京都足立区千住旭町5番

- 法人・大学本部
- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院工学研究科
- 大学院未来科学研究科
- 工学部
- 工学部第二部
- 未来科学部
- システムデザイン工学部
- 総合研究所



**埼玉鳩山キャンパス** 埼玉県比企郡鳩山町石坂

- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院理工学研究科
- 理工学部
- 総合研究所 (埼玉共同利用施設)



**千葉ニュータウンキャンパス** 千葉県印西市武西学園台2-1200

- 大学院先端科学技術研究科\*
- 大学院情報環境学研究科\*
- 情報環境学部\*
- 総合研究所 (千葉共同利用施設)



**東京小金井キャンパス**

東京都小金井市梶野町4-8-1  
 ■ 中学校・高等学校



**東京神田キャンパス**

東京都千代田区内神田1-14-8  
 ■ 出版局



\*情報環境学部および関係する研究科は、2018(平成30)年4月に東京千住キャンパスへ移転します。

- 大学院**
- 先端科学技術研究科(博士課程(後期))
  - 工学研究科(修士課程)
  - 理工学研究科(修士課程)
  - 情報環境学研究科(修士課程)\*
  - 未来科学研究科(修士課程)

- 工学部**
- 電気電子工学科
  - 電子システム工学科
  - 応用化学科
  - 機械工学科
  - 先端機械工学科
  - 情報通信工学科

- 工学部第二部**
- 電気電子工学科
  - 機械工学科
  - 情報通信工学科

- 未来科学部**
- 建築学科
  - 情報メディア学科
  - ロボット・メカトロニクス学科

- システムデザイン工学部**
- 情報システム工学科
  - デザイン工学科

- 理工学部**
- 理工学科
    - 理学系
    - 生命理工学系
    - 情報システムデザイン学系
    - 電子・機械工学系
    - 建築・都市環境学系

- 情報環境学部\***(2017(平成29)年度より募集停止)
- 情報環境学科

**東京電機大学高等学校**

全日制課程 普通科

**東京電機大学中学校**

研究推進社会連携センター：

- 総合研究所
- 研究推進部
- 地域連携推進センター
- 産官学交流センター

インスティテューショナル リサーチ センター

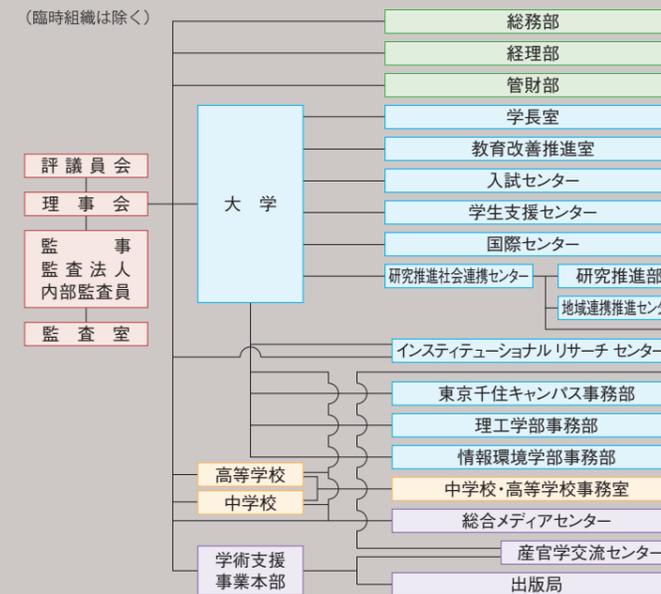
学術支援事業：東京電機大学出版局

# 経営体制

## ガバナンス体制

- 理事会は現在、理事15名および監事2名で構成し、経営、管理運営および業務執行に関する重要事項を審議するため、8月を除く毎月1回開催し、また必要に応じ臨時に開催しています。
- 常勤理事会は理事長、学長、常務理事および本法人の身分を持つ理事で構成し、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項の審議および理事会の委任業務について決定し、毎週1回を原則に開催しています。また必要に応じ、監事、卒業生理事等の出席を要請しています。
- 常務理事、担当理事を配置し、学園運営にあたっています。
- 監事は、2名のうち1名はこれまで本法人の役員または職員でなかった者を選任。理事会に出席し、法人全般の業務や財産の状況を監査します。また、監事監査、会計士監査、内部監査の三様監査の体制をとっています。
- 評議員会は学識者、卒業生、教職員など50名近くで構成し、予算と決算を含む学園経営の重要な事項の諮問や決定を行う機関として、年数回開催しています。

管理運営組織 (事務組織)  
 (臨時組織は除く)



## 学校法人東京電機大学 理事・監事

カッコ内は担当部門 ※は主担当 敬称略で記載しています。



### 理事

- |        |  |
|--------|--|
| 加藤 康太郎 | 理事長                                      |
| 安田 浩   | 学長(大学・大学院)                               |
| 小池 強   | 常務理事(法人全般、キャンパス活用・拡充、募金)                 |
| 射場本 忠彦 | 常務理事・未来科学部教授(※キャンパス活用・拡充)                |
| 佐藤 太一  | 工学部長・工学部第二部長(キャンパス活用・拡充)                 |
| 積田 洋   | 未来科学部長・未来科学研究科委員長                        |
| 大久保 靖  | 中学校・高等学校長(中学校・高等学校、入試・広報、教職員組織・労務(給与体系)) |
| 川井 悟   | 理工学部長(入試・広報、教職員組織・労務(給与体系))              |
| 佐藤 龍   | 総務部長(出版局、※教職員組織・労務(給与体系))                |
| 渡辺 貞綱  | 前一般社団法人東京電機大学校友会理事長(情報統括、募金)             |
| 松尾 隆徳  | 一般社団法人東京電機大学校友会理事長(校友連携)                 |
| 高井 裕司  | システムデザイン工学部教授(学務・教育研究推進・社会連携)            |

### 監事

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 石塚 昌昭  | 元社団法人東京電機大学校友会理事長(※財政健全化(給与体系)、※募金) |
| 檜村 幸辰  | 元理工学部教授(財政健全化(給与体系))                |
| 工藤 智規  | 元公立学校共済組合理事長                        |
| 高 為重   | 元財団法人私立大学退職金財団常務理事                  |
| 小林 清一郎 | 元セコム株式会社常務取締役、元セコムホームライフ株式会社代表取締役社長 |

### 顧問

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 吉川 弘之<br>(学術顧問) | 元日本学術会議会長、元東京大学総長、元放送大学学長、元(独)産業技術総合研究所理事長、(国研)科学技術振興機構特別顧問 |
| 古田 勝久<br>(学事顧問) | 前東京電機大学学長、元学校法人東京電機大学理事                                     |
| 小谷 誠            | 元東京電機大学学長、元学校法人東京電機大学理事、東京電機大学名誉教授                          |

特集1

# 学園創立110周年記念事業

本学園は、2017年9月に創立110周年を迎えます。2017年4月、東京千住キャンパスにシステムデザイン工学部、工学部に3学部を新設し、新たに5号館が完成しました。また、2018年4月には開設40周年を迎える理工学部と開設65周年の伝統を持つ工学部第二部の改編を行い、最高の教育を提供することで、輝き続ける学園の実現を目指します。

## 1 新学部設置(2017年4月) システムデザイン工学部(定員240名)

情報システム工学およびデザイン工学の知識の深化と技術の修得、そして、それらを基盤とした他(異)分野知識・技術との統合により、人間が快適で充実した生活を維持するために役立つ「もの・システム・サービス・空間」をデザインし、実現できる人材を育てます。すなわち社会環境の変化と科学技術の進展に対応でき、グローバルな環境で社会が真に必要なとする技術革新を引き起こせる専門技術者を育成し、これにより「人間社会に調和をもたらし、社会生活に活力を与える知の創造」を目指します。

### 情報システム工学科(定員130名)

高度プログラミング、コンピュータ、ネットワーク、データサイエンスの専門知識と実践力を学びます。

### デザイン工学科(定員110名)

工学および人間科学の知識や関連技術を学び、人間の本質を理解したデザイン力を身につけます。

## 2 2017年4月 工学部に新学科 3学科設置

### 電子システム工学科(定員90名)

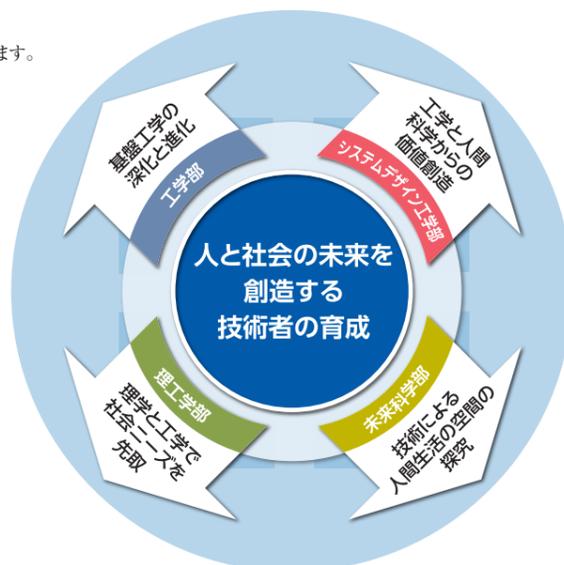
電子工学や情報技術の基礎および全体像を学び、就業力を身につけます。

### 応用化学科(定員80名)

環境を意識した4分野の学びを柱とし「人類の持続可能な発展」を目指します。

### 先端機械工学科(定員100名)

機械工学および関連の先端技術をベースに社会で生きるものづくりを学べます。



## 3 2017年4月 未来科学部 入学定員変更

建築学科の入学定員を100名から130名に、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科の入学定員をそれぞれ125名から110名に変更しました。

## 学校法人東京電機大学 中長期計画の推進

輝き続ける学園の実現のために、TDU Vision 2023を実行し、さらなる飛躍を目指します。

日本は、急速な少子高齢化やグローバル化が迫り、また、AIやIoTによる科学技術イノベーションが急速に進んでいます。こうした新しい時代に相応しい人材育成に対する大学への要請は強まっています。

本学は、2014年度から10年間を目標とした「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」を策定し4年目を迎えました。この間、全学的改編として2017年の学園創立110周年を

記念してシステムデザイン工学部と工学部3学科を設置、さらに2018年には理工学部3学系、工学部第二部の改編を予定しています。同時に東京千住キャンパス第2期計画として2017年に5号館を開設しました。

本計画を基軸に、縦型・横型統合的教育など特色ある教育の充実と教育成果の向上を図り、理工系教育・研究において新たな価値を創造し、学園のさらなる飛躍を目指します。

## 4 2017年4月 東京千住キャンパス5号館開設

東京千住キャンパス(2012年開設)の第2期計画5号館が2017年4月に開設しました。5号館は、地上12階地下1階建てで、大学院フリーアドレス研究室、新学部の研究室など、大学院・学部充実が図られました。その中でも、学園の建学の精神である「実学尊重」を具体化する施設として、3層吹き抜け延べ約820㎡の「ものづくりセンター」を設置しました。

センター内には7つのエリアを設け、金属3Dプリンタや5軸マシニングセンタなどの先端加工機械、各分野の技術修得に必要な各種機械・測定器等を配備。さらに、本学名誉博士の古川利彦氏が創業し、放電加工機メーカーの先駆的存在である株式会社ソディックのスペースを設けました。将来、日本の産業界で「ものづくり」に携わることを目指す学生たちが、在学中に先端技術に触れ、実践的に必須技術を習得することが可能です。

さらに、地域の賑わいに貢献する学外経営の業務施設として、スポーツクラブ「ルネサンス」、幼児から就学児童までの学習支援施設「キッズ大陸(あだち北千住園)」が入居しました。

建物の設計は第1期計画と同様、世界的に著名な本学名誉博士の横文彦先生によるもので、建物の外観や設備は、人と環境にやさしく災害に強い安全・安心で省エネルギーの建物を目指しています。



キャンパス南西鳥瞰

階	施設	施設	施設	施設	施設	施設	施設	施設
12F	会議室	会議室	大学院・リゾン	大学院	教員室・研究室			
11F	会議室		大学院	教員室・研究室				
10F	実験・実習室		教員室・研究室					
9F	教員室・研究室・学科会議室							
8F	実験・実習室		教員室・研究室					
7F	総合メディア	大学院セミナー	学生ラウンジ					
6F	教室							
5F	教室							
4F	教室							
3F	教室	事務室	吹抜け					
2F	地域連携・交流・CRC	事務室	エントランス・ホワイエ	吹抜け	学生ラウンジ	業務施設		
1F	業務施設	管理課室	エントランス・ホワイエ	アトリウム	ものづくりセンター	業務施設		
B1	設備室他				駐車場	業務施設		



5層吹き抜けのアトリウム ものづくりセンター

■計画概要 ①開設時期 2017年4月 ②工事期間 2015年2月1日～2017年1月31日 ③用途 [1]大学用途: 教室、ゼミ室、実験・実習室、研究室、教員室、ものづくりセンター、学生ラウンジ、地域交流・連携施設、事務室、法人施設、アトリウム他 [2]業務施設: 会員制スポーツクラブ他 ④面積関係 [1]敷地面積: 15,178.71㎡(I、III街区合計値) [2]建築面積: 3,975.74㎡ [3]容積対象面積: 29,498.27㎡(大学用途: 23,644.81㎡、業務施設: 5,833.46㎡) [4]延床面積: 33,377.17㎡(地下駐車場、エレベーターシャフト含む) ⑤階数・高さ 地上12階、地下1階、塔屋2階/53.34m ⑥構造 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造および、鉄筋コンクリート造、基礎工法 PHC杭他 ⑦設計 株式会社 横総合計画事務所(統括設計・監理)、株式会社 日建設計(設備・構造設計・監理) ⑧施工 株式会社 大林組

## TDU Vision 2023 の5項目

- 1 大学**  
理工系私立大学のトップランナーを目指す～全学的改編と縦型・横型統合的教育～
- 2 中学校・高等学校**  
教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- 3 財政健全化の推進**
- 4 ガバナンス構築と運営組織の見直し**
- 5 推進のための点検評価**

年次	目標達成に向けた主なステップ
2023年(平成35年)	■学園の中長期計画の達成 社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現
2018年(平成30年)	■4月 理工学部 3学系 開設 オーナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)、工学部第二部社会人課程(実践知重点課程)設置
2017年(平成29年)	■9月 学園創立110周年 ■4月 システムデザイン工学部 開設 工学部3学科 開設 東京千住キャンパス5号館 開設
2014年(平成26年)	■4月 学園の中長期計画「TDU Vision 2023」の策定

## 5 2018年4月 理工学部 新学系、新プログラムの設置

### ① 新学系設置

【**生命科学系**】分子生命科学コース 環境生命工学コース 〈定員80名〉  
環境・医療問題等を抱える現代社会に対応できる柔軟な応用力を持った人材を育成します。

【**電子工学系**】電子情報コース 電子システムコース 〈定員80名〉  
人間について学び「ものづくり」を通して人にやさしい技術者を育成します。

【**機械工学系**】設計・解析コース 加工・制御コース 〈定員80名〉  
高度専門技術と最先端工学に適應するエンジニアリングセンスを身につけた技術者を育成します。



### ② オナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)新設

学ぶ意欲のある学生が、さらに高いレベルの研究に取り組めるよう、成績優秀者を対象とするオナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)を新設します。理工学部の学びの特徴である「主コース」「副コース」の専門性を深化したもので、3年次から設置します。通常の専門授業のほかに、将来的に発展が予想される「宇宙工学」「生体医工学」「環境工学」といった学際領域における独自の授業を提供し、幅広い知識を有し専門性の高い人材の育成を目指します。



### ③ 各種施設の整備 総合グラウンドリニューアル\* バリアフリー化\* \*2017年3月完了

総合グラウンドを人工芝による全天候型グラウンドへリニューアルし、サッカー、ラグビー、フットサル、ソフトボール等のコート、ゴムチップ舗装による直線レーン、観客席を設置しました。3号館では、主要出入口2カ所を自動扉に改修およびエレベーターを新設し、キャンパス内バリアフリー化が完成しました。本館エントランスホールでは、掲示板をリニューアルし活用するとともに、エリア全体のイメージアップを図り、ディスプレイ1台を設置。さらに、セミナーハウスの計画を推進します。



全天候型の総合グラウンド



### 理工学部開設40周年記念式典

鳩山祭開催初日の11月3日(祝・金)に開設40周年記念式典・祝賀会を開催します。式典に先立って講演会、鳩山町指定無形民俗文化財である泉井神社さら獅子舞によるアトラクションを披露します。

## 6 2018年4月 工学部第二部(夜間部)の改編

社会人が学びやすい環境を整備し、職業実践力を教育効果としてより一層高めていくことを目的に、新課程を設置します。また、新社会人(高校新卒者)を積極的に支援する入試制度を導入します。

### 【「社会人課程(実践知重点課程)」設置

企業人としての職業実践力をより高めるための本課程では、主に企業出身の教員による「実践知重点科目」を学び、ものづくりの現場で適切な判断ができる実践知を磨きます。「開発・設計ユニット」「安全・安心ユニット」「スキル・キャリアアップユニット」の3つのユニットを設置し、よりニーズに合った学び方を提供します。

### 【「はたらく学生入試」の導入

本学への入学と同時に、実験・実習、事務作業の補助などを行う本学の「学生職員」となる独自の職業付き入試です。働きながら学習する意欲のある新社会人(高校新卒者)が対象です。2018年度入学生より募集を開始します。

### 【入学定員の変更(学則変更認可申請中)

電気電子工学科、機械工学科、情報通信工学科の各学科の入学定員を50名から60名に変更(定員増)予定です。



## 7 情報環境学部 移転準備推進

2018年4月の東京千住キャンパス移転後の時間割や学生生活等の対応、情報環境学部在校生に係る東京千住キャンパスでの事務部署の受入れ体制の整備を推進します。

## 8 中学校・高等学校 オルセースクールミュージアム開催

東京小金井キャンパス開設25周年にもあたる本年、「生徒参加型」「高大連携」「地域連携」「卒業生母校訪問」「志願者確保」の5つをキーワードに、「オルセースクールミュージアム」を開催します。これは、8月5日～13日、オルセー美術館所蔵品の印象派を中心にした原寸高精細レプリカを学校を会場にして展示するものです(高校生以下、卒業生無料)。さらに生徒によるガイドツアー、イベントや各種発表、地域連携した展示や大学研究室展示等を行います。



## 9 学園広報の推進

### ① 学園Webサイトリニューアル

より魅力的で、スマートフォン対応などユーザビリティの高いWebサイトを目指し、大学および中高のサイトをリニューアル公開しました。学生・生徒募集を軸に、歴史と伝統ある理工系大学ならびに中学校・高等学校のブランド向上を目的としています。また、大学サイトには2018年4月の理工学部改編をお知らせする特設サイトを開設しました。



トップページ(大学)

### ② 記念出版物の発行

#### 「東京電機大学 卒業生の活躍と企業紹介」刊行

卒業生の活躍する企業等を中心に紹介する冊子を企業や卒業生の協賛をいただいて作成し、就職年次生を中心に広く配布します。10月末に完成予定です。制作等は株式会社オーム社の協力を得て行います。

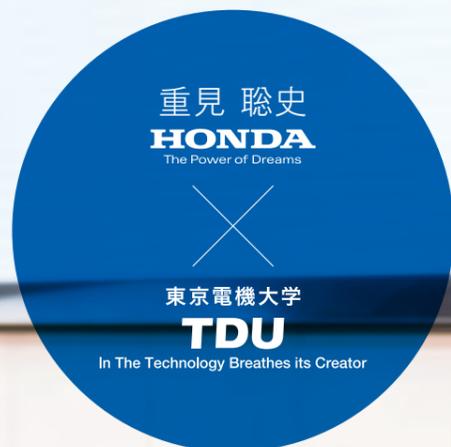
#### ブランドブック 続編

科学技術に関する歴史的トピックスを紹介し、技術が社会の進化に重要な貢献をしてきたことを解説するリーフレットを作成します。





**HONDA**  
The Power of Dreams



株式会社本田技術研究所  
上席研究員

**重見 聡史** さん

1987年3月、東京電機大学電子工学科卒。同年4月、本田技研工業株式会社に入社し、株式会社本田技術研究所に配属となる。自動車のエンジンコントロールユニット(ECU)の開発を手がけ、1996年9月からはロボットの研究に従事しHondaロボティクス技術進化に貢献した。ASIMO開発は当初から携わり、2002年より開発責任者、2004年12月発表の「次世代ASIMO」以降は、開発リーダーを務める。2017年4月より現職。

特集2 卒業生スペシャルインタビュー

## 未来をクリエイトする大学▶卒業生メッセージ

まるで人のように歩き、手を動かし指もあやつるホンダの「ASIMO」。

世界的知名度を持つ人型ロボットですが、その研究開発の指揮を取るのが電大OBの重見聡史さんです。大学時代からASIMOの未来まで、重見さんにお話を伺いました。

### ASIMO開発の根底に息づく 東京電機大学での日々

先日、東京電機大学で講演させていただいたんですよ。学生さんたち皆、真剣な面持ちで耳を傾けてくれ、ものづくりへの興味が手に取るように伝わってきました。特にロボット技術の話には深く頷くなど反応がよい印象を受け、私も学生であった当時を懐かしみました。小さい頃から電気工作が好きで、中学は

アマチュア無線部での活動や自作ラジオの製作に熱中していました。私が高校生の頃は、ちょうど自動車のエンジンのキャブレターが電子制御に移行する時代で、あたらしい技術が生まれようとする転換期でした。電大に進んだのは、もともと興味のあった自動車の技術進化がきっかけです。将来は、第一線で活躍できるエンジニアになりたいと考え、実学を重んじる電大に魅力を感じました。

学生時代の思い出という、レポートでの苦勞ですね(笑)。しかし、一つのものを多方面から見ていく検証の重要性をしっかりと学べたことは、大きく役立っています。振り返れば、科学技術の基礎的な知識や電気工学の講義、専門的かつ多分野の学問に触れられる環境で得たことなど電大での学びは、今日のASIMO開発にも息づいていると感じます。

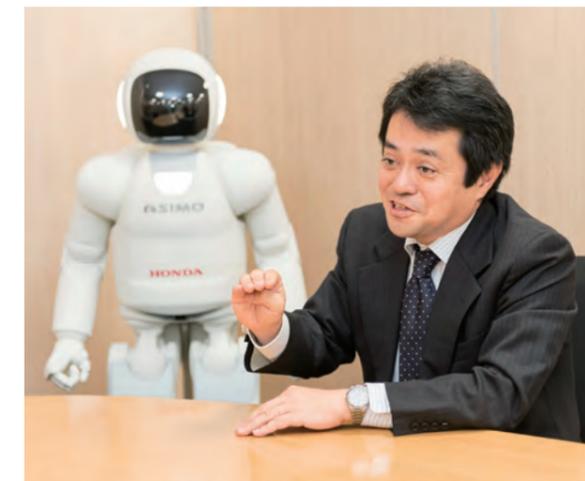
### 自動車からロボットへ、大学卒業後の仕事

大学卒業後は、株式会社本田技術研究所でECUという自動車のエンジン部などをコントロールするコンピュータの開発に携わりました。その商品化を経て、社内では1986年から発足していたロボット研究に参画しました。ASIMOプロジェクトには初期から携わり、2002年に開発責任者となって現在に至ります。私がロボット分野へと進んだのは、ロボット技術は機械だけでなく制御や情報処理など多様な技術の集合体であり、多面的なチャレンジができると感じたためです。また、ありたいロボットを実現することで、人の生活スタイルが変わるような、これまでにない新しい価値を社会に提供できると考えました。

### ASIMO開発理念と電大のスピリッツ

ASIMOの二足歩行や指先や関節の詳細な動き、その他の機能やデザインは、数々の研究開発を経た成果です。例えば前身であるP3は工場で働くロボットを想定していて、もっと大きな大人サイズの160cm、130kgでした。そこからより生活に寄り添えるロボットに方向性を定めた結果、小型軽量化した初代ASIMOが誕生した背景があります。

現在のASIMOの身長は130cm、50kg。照明スイッチのオンオフやドアノブの開閉など、家の中で手が届き作



業ができるサイズを検討し、児童の身長にしています。この点も重要で、私たちが常に目指してきたのは人間社会に溶け込めるロボット。「人の役に立ち、生活を豊かにする」という弊社のロボット研究の理念が、研究開発の根底を支えています。考えれば、「技術は人なり」という、電大の教育・研究理念とも近いことかもしれないですね。

### 研究への取り組み姿勢

私が尊敬する技術者の方々には、ある共通点があります。それは、「高い専門性を持ちながらも、他の技術・学問分野でも議論を行える」こと。原理原則を身につけて技術を追求するプロフェッショナルでありながら、あらゆる自然法則に目を向けるジェネラリストでもあります。一見、相反することかもしれませんが、その両立を目指す技術者の姿勢が、世の中にあたらしい製品や技術を生み出し、これからの社会・研究を担っていくのだと私は思います。



### 20XX年への展望

ASIMOを、AIとの組み合わせにより知能機械へと進化させていきます。人が持っている機能をロボットで実現していくことがASIMOの進化につながっています。最初は、歩くところから階段を登れるようになり、目や耳の機能を使うことで人の顔や声を認識し、さらに姿勢・仕草を理解できるようになりました。そして現在は、飲み物の運搬だけでなく、水筒の蓋を開けてコップに注ぐなど指先を使った作業もできるようになっています。さらにAI活用では、「経験」・「将来

予測」から相手に適した行動の自律的な選択が可能になりました。今後は、人のより身近で役に立てるASIMOの研究を進めていくとともに、その過程で生まれる技術をさまざまな分野に応用し、ロボット技術で広く社会に貢献していきたいと思っています。同時に、ロボット研究の究極は「人間を理解すること。未だ解明されぬ領域への探究を続けていきたいですね。」

東京電機大学 学長 安田 浩

# 担い手を育成 イノベーションの 融合発想で未来社会に貢献する



「もの」から「こと」を創造する時代への流れを受け、科学技術のあり方が問われている今、東京電機大学が大きく変わろうとしています。100年を超えて受け継がれる理念・精神はそのままに、イノベーションを引き起こす人材の育成・輩出に向け、新学部の設置、学科の再編成を実施、基盤技術に「智恵と感性」を乗せ、IoT世界を舞台に新しい貢献を創り出します。

IoT: Internet of Things ものインターネット

## 基礎技術の上に高い価値を創り出す、 社会が最も必要とする人材を育成

科学技術の急速な発達により人々の暮らしが豊かになる一方で、地球温暖化、人口減少、エネルギー資源の枯渇など、様々な問題が発生しています。情報技術、さらにはIoTの進展を背景に「第4次産業革命」と呼ばれる変革の波が訪れ、社会や産業構造に大きな変化をもたらそうとしています。今後起こり得る変化に柔軟かつ的確に対応していくためには、様々な技術分野を融合して課題を解決し、社会経済の発展と社会福祉の向上に柔軟に寄与する科学技術イノベーションの推進が欠かせません。すなわち、電気電子・機械・建築・化学・情報などの基礎技術の上に高い価値を創出し、社会に貢献する理工学系の人材がますます必要とされています。

天然資源の少ない日本は、人材資源こそが頼りです。しかも、「ものづくり」によって暮らしを豊かにしてきた時代から、ここを豊かにする「ことづくり」が求められる時代となり、技術者の思いだけでは、人々の期待に応えることはできなくなっています。大切なのは、ものづくりの土台に「智恵と感性」を加え、「もの」と「ところ」をIoTでつなぐ技術力とひたむきな精神力です。

創立以来100年を超えて「技術で社会に貢献できる人材の育成」を使命とし、ものづくりを重視する建学の精神「実学尊重」と、人間性や感性を尊ぶ初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究理念の柱としてきた本学にとって、これまで以上に、その強みを発揮するチャンスだと言えます。

さらに、IoTによって距離の概念がなくなった現在の世界

で活躍していくためには、語学教育に加え、異文化教育の必要性も高まっています。そこで、「グローバル化」を3つ目の柱に加え、世界に目を向けた学びをサポートしていきます。今まで多くの優秀な人材を輩出してきた大学としての誇りを胸に、今後も社会が最も必要とする質の高い人材を育成していく考えです。

## 時代を超えて輝き続ける大学へ、 学部・学科の改編をはじめとする変革を推進

2014年、本学はさらなる飛躍を誓い、2023年までの10年間を目標とする中長期計画を策定しました。時代を超えて輝き続ける大学の実現に向け、「進化するTDUイノベーション～人と社会の未来を創造する技術者の育成～」を旗印に掲げ、教育面ではイノベーションを引き起こす人材を輩出すること、研究面では大学自らがイノベーションを起こし続ける組織であることを目指しています。

その重要なステップとして、2017年4月に、工学と人間科学の見地から価値を創造する「システムデザイン工学部」を新たに開設しました。「情報システム工学科」「デザイン工学科」では、人の感性や行動を理解した上で、異なる分野の知識・技術をIoTで融合し、人間の快適で充実した暮らしに役立つ「もの・システム・サービス」をデザインする能力を養います。一方工学部には「電子システム工学科」「応用化学科」「先端機械工学科」を新設しました。既設の未来科学部や理工学部でも、「ものづくり教育」をより一層重視していきます。

さらに新校舎「東京千住キャンパス5号館」も完成しました。教室、ゼミ室、実習室のほか、レーザー加工機や金属3Dプリンタなどの最新設備が揃う「ものづくりセンター」も設置され、学生が頭と手を同時に働かせながらアイデアを具現化することができます。

そして、2018年4月には理工学部には「生命科学系」「電子工学系」「機械工学系」を新設するとともに工学部第二部では、新たに「社会人課程(実践知重点課程)」を設置する計画です。

また、刻々と変化する社会のニーズにより高度に対応していく上では、大学院の充実も大きなテーマです。具体的施策の一つに、分野にとらわれない広く深い学びの実現があります。学部の枠を越えて多様な智恵を結集し、現代社会が求める重要な研究分野であるサイバーセキュリティや医療福

祉機器などの研究に取り組む計画です。

## 智恵をカタチに、イノベーション 創出への強い意志と情熱を醸成

現在、政府は、「第5期科学技術基本計画」を策定し、我が国を「世界で最もイノベーションに適した国」へと導こうとしています。目指すのは、多様なニーズにきめ細かく対応し、あらゆる人々に真の豊かさをもたらす「超スマート社会」です。その実現に不可欠なのが、人間が自ら動こうとする力を補助する「自立支援型テクノロジー」と、情報に基づいて人間の行動をよりの確で効率的なものにする「情報駆動型テクノロジー」およびすべてをつなぐIoTです。

「ものづくり」から「ことづくり」への流れが加速するなか、本学はこの3つのテクノロジーを組み合わせることで、人間の体験を軸に新しい価値をデザインし、社会が真に必要としている技術を創り出そうとしています。こうした取り組みは新しい学部・学科・学系に限ったことではありません。中長期的に全学部へと広げていきます。同時に、ディスカッションの中からアイデアを纏める訓練や、アイデアを自らの手でカタチにするプロセスなど、アクティブ・ラーニングを積極的に導入し、イノベーションへの主体的な姿勢を引き出すことも検討しています。いずれも、本学が、社会や科学技術の進むべき方向性を見据えて実施する全学的改編の一環です。

幸い、IoTの利活用により世界中の智恵を容易に自分の手元に引き寄せることができる時代です。アンテナの感度を高めていけばいたるところにヒントがあります。自らヒントを見つけ、いかに新しい発想に結びつけていくか。探しても見つからないなら、いかにゼロから構築するかが問われています。長きにわたりJPEGやMPEGなどの画像・映像技術の標準化活動に携わってきた私自身を振り返ってみても、そこには、いつか社会のためになるという強い思いと、それを完遂する意志と情熱が欠かせません。もはや技だけでは太刀打ちできないのです。

新時代を切り拓くためのキーワードは、技術融合とIoTによる「智恵をカタチ」にする若い力です。本学はこの意識のもとで団結し、引き続き優れた人格を持ったインテリジェントな技術者の育成と輩出に尽力していきます。来るべき超スマート社会に、多くの卒業生が時代の担い手として、世界を舞台に活躍されることを願ってやみません。

# 事業報告

2016年度の取り組みと成果

## 1. 大学・大学院

## 2. 中学校・高等学校

## 3. 財政健全化

## 4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

## 5. 継続する諸課題



### ▶ 序文 ◀

世界情勢は予測が難しい局面を迎える一方、日本は景気回復傾向と言われますが少子高齢化を迎え、人手不足が深刻化しつつあります。さらにAIやIoT等による科学技術イノベーションが急速に進み、社会は大きな変革期にあると言えます。

こうしたなか平成28年度は、平成26年度からスタートした中長期計画(TDU Vision 2023)の3年目として、以下の4つの分野で主要事業を推進しました。

『I.大学・大学院』では、「全学的改編に係る最終答申」を受けたシステムデザイン工学部、工学部3学科設置の準備を進め、平成29年4月に開設に至りました。一方、1月には、東京千住キャンパス5号館が竣工を迎え、実学尊重を具現化する「ものづくりセンター」、また地域賑わいのための業務施設も整備しました。さらに平成30年4月に予定する理工学部改編では、3学系の開設、オナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)の新設、工学部第二部改編では社会人課程(実践知重点課程)、「はたらく学生入試」の導入を決定し、学生募集の準備を整えました。

教育・研究面では、教育の質保証に向け、教育プログラム検証のため学生の学修到達度調査を実施、教職員向けFD/SDセミナーでは、授業運営に役立つファシ

リテーター研修を実施し、PBL支援プログラムと併せアクティブ・ラーニング導入を推進しました。また、「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」を継続して開講するとともに、先端レーザー技術研究所、地域連携推進センターを設置しました。

『II.中学校・高等学校』では、将来計画委員会答申に基づきクラス編成、学習・進路指導体制の改善を図り、新たな教育としてTDU 4D-Labを開始しました。

『III.財政健全化の推進』では、東京千住キャンパス第2期計画の減価償却額の増額を考慮した資金計画を策定し、経費削減を実施しました。また平成30年度の大学院学費値上げを決定しました。

『IV.ガバナンスの構築及び運営組織の見直し』では、全学部統一方式による学部長、研究科委員長選考規程の制定他、大学評議会と大学調整連絡会議の本格的運営を開始しました。また全学的改編などに対応すべく東京千住キャンパス事務局を設置しました。

本学園は、創立110周年を契機に、原点を踏まえ各部門が分野を越えて統合、連携し協力することで学生、生徒に最高の教育を提供し、さらに強い学園の創造を目指していきます。

### 学校法人東京電機大学の中長期計画について

「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision 2023～」  
社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学の実現

- I. 大学・大学院:理工系私立大学のトップを目指す ～全学的改編と縦型・横型統合的教育～
- II. 中学校・高等学校:教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- III. 財政健全化の推進
- IV. ガバナンス構築と運営組織の見直し
- V. 推進のための点検評価

\*以下本文については、中長期計画書の項目別に掲載しました。

# 1. 大学・大学院

「全学的改編に係る最終答申」を受けたシステムデザイン工学部と工学部3学科の設置準備を進め、平成29年4月に開設しました。また平成30年4月に向けた理工学部及び工学部第二部の改編準備を推進しました。一連の全学的改編では、今後の継続した大学改革が課題となりました。

教育については、学生を主体とした新しい教育手法の導入促進を推進しました。また、新たに建設された5号館に開設した「ものづくりセンター」の本格運用が待たれます。学生厚生面では、離籍者対策、就職支援を推進しました。また大学院の拡充整備に向けた検討を推進、競争的研究資金は総額で前年度実績を上回り、新たな研究所を設置しました。大学ガバナンス体制の整備を推進したほか、大学基準協会の認証評価を受審し適合認定を受けました。情報環境学部では開設15周年記念事業を実施、理工学部では平成29年度の開設40周年の記念事業を推進しました。

## 1. 理工系私立大学のトップランナーを目指す施策

全学的改編の特色である縦型、横型統合的教育の実現に向けた事業を推進しました。また新しい教育手法の導入促進を図りました。大学院の充実、進学率向上に向けた環境整備を行うとともに、競争的研究資金獲得に注力し前年度実績を上回りました。多様なニーズに対応した公開講座は、大学基準協会認証評価の際にも高く評価されました。

### 1 特色ある教育の推進と大学院進学率40%の実現

#### 特色ある教育の充実、活性化

- 平成29年度全学的改編における横型統合教育の共通教育での実施に向けた準備を行いました。
- PBLを含むアクティブ・ラーニング科目を全学に拡大すべくPBL支援プログラムを継続しました。
- 授業運営方法の情報提供・共有のためのFDを開催しました。
- 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」(通称AP、以下AP事業)を契機に導入したラーニングマネジメントシステム(LMS)を用いた教員アンケートを実施しました。

#### 教育改善の取り組み

- 学修到達度調査(PROG、専門力など)を実施し教授会等での報告を行いました。
- PBL支援プログラムの運営やグループワークのためのファシリテーター研修を実施し成果発表会の開催を行いました。
- 全学FD/SDセミナーを全10回開催しました。(参加者数延700人)
- AP事業の計画に沿うPROGの推進やシラバスの充実化を実施しました。
- ルーブリック作成に利用するためのマニュアル作成とクリッカー活用を促進しました。
- 学事日程、授業時間の全学統一化の検討を開始しました。

#### 大学院進学率40%の実現

- 複数指導体制、大学院進学奨学金、大学院進学PR、大学院グローバル科目等を展開しました。
- 一部の学科で進学率40%を達成しました。

### 2 社会に貢献する研究活性化による競争的研究資金獲得の増加

- 科研費採択増を目的とした申請書の面接添削指導を実施しました。
- 科研費採択額で前年実績の1.4%増を達成しました。

### 3 公開講座や産官学連携を通じた社会貢献の向上

「地域連携推進センター」を研究推進社会連携センター(以下CRC)内に設置しました。

#### 【公開講座】(キャンパス毎)

- 東京千住：ME(医用生体工学)講座、足立区連携、科学・ものづくり体験教室・講座
- 埼玉鳩山：理工学研究科公開科目、彩の国大学コンソーシアムにおける公開講座、子ども大学はとやま、サッカークリニック、オーケストラを楽しもう
- 千葉ニュータウン：でんだいキッズセミナー

#### 【産官学連携等の社会貢献】

- 東京千住：「足立区産学公技術連携促進に係る業務委託」事業を推進、イベント開催、城東地域活性化推進協議会の運営、大学知財群活用プラットフォーム(PUIP)と連携し経済産業省の平成28年度地域中小企業知的財産支援力強化事業に採択
- 埼玉鳩山：TDU産学交流会、北坂戸にぎわいサロンでの講座開講
- 千葉ニュータウン：TDUいんざいイノベーション推進センターの運営・交流会、産学連携オフィスの入居者の相談対応、市民の個別相談対応、印西市商工会主催事業への協力、地元保育園の行事への会場提供
- 福島県郡山市：郡山市での講演会開催、研究施設見学実施

## 2. 全学的改編への対応

システムデザイン工学部、工学部3学科の設置準備を推進し、平成29年4月に開設、同時に未来科学部の定員変更を行いました。また理工学部及び工学部第二部の平成30年4月改編に向けた準備、情報環境学部・同研究科の東京千住キャンパス移転準備を推進しました。

### 1 新分野を含めた教育・研究組織の再編成(横型統合的教育)

#### 【平成29年4月全学的改編概要】

- 新学部開設 システムデザイン工学部 情報システム工学科、デザイン工学科
- 新学科開設 工学部 電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科
- 定員変更 未来科学部 建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科

#### 【平成30年4月全学的改編計画概要】

- 理工学部 新学系 生命科学系、電子工学系、機械工学系  
新プログラム オナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)
- 工学部第二部 社会人課程(実践知重点課程)の設置  
新入試制度 はたらく学生入試  
定員変更 電気電子工学科、機械工学科、情報通信工学科

### 2 柔軟な教育課程を編成するための新しい教員組織の編制

- 東京千住キャンパスにおける「新共通教育プログラム」の実施準備を行いました。
- 東京千住キャンパス「自然科学系列」の系列運営等の検討と居室配置の確定を行いました。
- 「理工学部基礎教育センター」を平成28年4月に設置しました。
- 理工学部改編に向けた「理工学部新共通教育プログラム」を策定しました。

### 3 東京千住キャンパスに学生定員を集約したI街区の活用

- 大学院等共用スペースの利用計画を確定しました。
- ものづくりセンターの施設・設備に関する導入計画を実行しました。
- 新学部専用スペースのフォーラムラウンジを含めた利用計画を策定しました。
- 教室、学生厚生、国際交流スペース、ミニコンビニ等の利用計画を確定しました。

## 3. 大学院の拡充整備

大学院進学率向上にも寄与する環境整備と改編案を策定し推進しました。

### 1 縦型統合的教育・研究理念を踏まえた大学院の充実整備

- 平成32年度を目途とした大学院改編について検討しました。
- 大学院における横型統合的教育実施を検討しました。

## 4. 社会人教育の充実

社会人教育の充実を踏まえた工学部第二部改編案を策定するとともに、社会人学び直し履修証明プログラムを継続しました。

### 1 工学部第二部改編関係

- 社会人学生に適した学習環境・教育方法等の施策の検討を行いました。
- 「社会人課程(実践知重点課程)」の設置及び「はたらく学生入試」の実施を決定しました。

### 2 学びに適した学習環境、教育方法等の整備

- 社会人学び直し履修証明プログラム「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」を継続しました。
- 平成28年度にAP事業の一環として導入したLMS(WebClass)について、学生が自己評価に使用できることを確認しました。

## 5. 研究推進・支援の実施

学内、産業界等とのコンソーシアム化を促進し、重点研究課題の設定と研究所を新設しました。外部研究費については金額で前年度実績を上回りました。

### 1 総合的教育・大学院の拡充整備を支える研究支援体制の強化

- 総合研究所各部門における重点研究課題の設定を行いました。
- 「先端レーザー技術研究所」を新設しました。

### 2 学内研究者コンソーシアム化の推進

- 私立大学研究ブランディング事業に係る申請を行いました。
- 各研究所の研究推進支援を実施しました。



### 3 他大学及び各種団体との連携

- 外部研究資金(公的・受託・共同各研究費)で目標を上回る達成となりました。
- 経済産業省の平成28年度地域中小企業知的財産支援力強化事業に採択されました。
- CRCと経営同友会との意見交換会を開催しました。



## 6. グローバル化の推進

教育の質の保証に力点をおく受入れと送り出し強化を方針とした本学の理念に沿ったグローバルエンジニアの育成を目指す計画を推進しました。

### 1 意欲ある留学生の受入れ数増加

- 学部の外国人特別選抜入試で、前年比約240%となりました。
- 「日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勤めたい進学先 大学(理工系)」部門で5年連続入賞を果たしました。
- 海外協定校等との連携強化により、11名の研究生を含む留学生の短期受入れを実施しました。
- 留学生共通教育科目10科目を開講しました。
- ENSMM(フランス国立高等精密機械工学大学院大学)との教員交流を踏まえた教育プロジェクトを推進しました。

### 2 日本人学生留学派遣数増加

- 日本人学生の海外留学、海外派遣数は増加となりました。(送り出し人数合計:94名)
- 英文大学案内(全面改訂版)の作成、海外5大学との新規協定、覚書締結を実施しました。
- 理工学研究科学内推薦入試合格者(21名)の中原大学(台湾)での海外研修を実施しました。

### 3 大学グローバル化支援

- 学生及び教職員を対象にグローバルSDプログラムを実施しました。
- TDU神山治貴海外留学派遣プログラムによる第1期生がフィンランド・ラップランド応用科学大学に4カ月留学しました。また、第2期生2名を選定しました。

## 7. 学生確保

平成29年度入試では、志願者数23,254名(前年21,956名)で、前年比106%となりました。特に新学部、新学科設置による全学的改編の特別広報活動の成果が現れました。学部においては、目標とした入学者数は十分に確保されましたが、大学院は定員確保に至りませんでした。

### 1 全学的改編に係わる広報活動

### 2 質の高い志願者獲得を目指した広報活動

### 3 志願者数の確保を目的とした広報活動

### 4 女子学生志願者獲得のための広報展開への取り組み

### 5 大学院志願者獲得のための広報の継続

## 8. 学生支援

学生厚生面では、仲間作りの支援とともに、学生相談体制の充実を図り、離籍者減少対策を推進しました。また、平成30年度の情報環境学部の東京千住キャンパス移転に伴う学生団体間での交流調整・促進を図りました。就職面では、採用意欲の高まりから、求人件数14,281社(前年比6.2%増)、求人人数180,761人(前年比15.2%増)で前年度を上回りました。内定率は98.4%となりました。しかし、厳選採用の傾向は変わらず、教職協働を軸に学生支援を強化し、卒業生を含む学園全体での安定した就職率の維持・向上を図ることが必須です。

### 1 学生支援体制の確立

#### 学生の仲間作りの支援

- フレッシュマンセミナー等を実施しました。
- Webを活用した勧誘活動や「日本文化いけばな体験講座」等を開催しました。
- 情報環境学部の東京千住キャンパス移転に向けた、学生団体への説明と学生団体間での話し合いを開始しました。
- ホームカミングデーや学長賞の受賞者OB・OGの集い等を開催しました。

#### 学生相談体制の充実による離籍者減少対策と学生を元気づける取り組み

- 学生アドバイザーによる定期的な面談、休学中の学生・父母へ電話連絡、教員と連携した学習支援を実施しました。
- 新入生への学科毎の説明会、新入生補導行事を実施しました。
- 学生相談室の利用者の増加傾向に伴う電話相談サービスの活用を開始しました。
- メンタル面で専門家等の支援が必要な学生のためのコーディネーターの配置を検討しました。

- 障害者差別解消法への対応についてのガイドライン案を作成しました。
- 転学部・転学科の希望学生に対応する手続き方法の改善を行いました。

#### 奨学支援の充実

- 学長表彰による顕彰のほか、経済的困窮者に対する学費免除措置の充実を図りました。
- サポート基金を活用した奨学金の支給等を実施しました。

## 2 就職支援体制の充実

#### 就職支援の強化充実

- 教員を対象に就職状況を解説する「教員FDセミナー」を開催しました。
- 仕事研究、TDU企業セミナー、個別企業セミナーの開催、U・Iターン支援強化をしました。
- 低学年向けのキャリアデザインサポートセミナーを実施しました。
- インターンシップ参加促進に向けた方策の強化・充実を図りました。
- 工場見学、現場実習、体験実習を実施しました。
- TOEIC®スコアアップセミナー(基礎～応用編)を実施しました。
- 「ロボ体験講座」「未来体験講座」を開催しました。
- 「個人情報基礎検定講座」を開催しました。



## 9. IR活動の推進(教学系)

研究教育業績データベースを改善したほか、学生生活アンケートを実施しました。

### 1 学長室と連携した研究教育業績データベースの運用

### 2 在校生の学生生活満足度アンケート調査のWebベースでの実施

### 3 大学認証評価受審における必要なデータ提供

## 10. キャンパス整備

全学的改編と連動した建物計画を推進し、工事を完了、関連する移転等を実施しました。

### 1 東京千住キャンパス第2期計画(I街区)の推進

- 平成29年1月27日に竣工式、4月1日に開設しました。
- 千葉ニュータウンキャンパスからの移転、対象部署の移転を実施しました。

### 2 東京千住キャンパスへのキャンパス集約に向けた検討

### 3 東京千住キャンパスへの集約後の各キャンパスの活用方法等の策定

## 11. 各キャンパス施設設備の整備

学生を主体とした安全安心なキャンパスの維持のための更新、改修を実施するとともに、サービス向上を図りました。理工学部開設40周年事業の検討を開始しました。

### 1 システムデザイン工学部設置等に係る機械装置備品購入、ものづくりセンター設置に係る施設設備の整備

### 2 各キャンパスの施設設備の整備

- 施設設備の中長期更新・改修計画に基づく事業を推進しました。
- 埼玉鳩山キャンパスにて昇降機の新設などによるバリアフリー化を完成しました。

### 3 キャンパスアメニティ向上等のための施設設備の更新

- 埼玉鳩山、千葉ニュータウン、東京小金井の各キャンパスの更新工事を行いました。

### 4 各キャンパスの教育設備の更新

- 教育設備の更新を実施しました。

### 5 情報インフラの全体最適化による、教育・研究活動及び学生生活等の支援

- 図書館業務システムの更新、新機能の追加を行いました。

### 6 埼玉鳩山キャンパス開設40周年記念事業の検討・実施

- 総合グラウンドの人工芝化などの整備工事を完了しました。
- セミナーハウス(仮)の基本計画案を策定しました。

## 2. 中学校・高等学校

「東京電機大学中学校・高等学校将来計画委員会答申」に基づく教育改善、収支改善、生徒募集の強化、高大連携を図る具体的計画を推進しました。平成29年度入試では定員を超えた入学者を確保しました。なお財政面の目標については平成30年6月を目途に達成評価を行います。

### 1. 教育改善と高大連携

#### 1 進学実績の向上

- 中3生から習熟度別クラス編成を継続し効率的な学習・進路指導体制の確立を図りました。
- 授業技法・評価方法(ルーブリック)の研修、授業評価アンケートを改善しました。
- ICT化整備事業(電子黒板設置)を継続実施しました。
- 学年横断型のゼミ学習(TDU 4D-Lab)の初年度を総合学習として実施しました。
- アクティブ・ラーニング型の授業実践を試行しました。
- 東京電機大学との教育面での連携を図りました。

### 2. 収支改善

#### 1 収入増加

- サポート募金目標額を達成しました。

#### 2 校務運営体制の見直し

#### 3 経費削減

- 前年比1.9%の削減目標を達成しました。

### 3. 生徒募集・広報活動の強化

#### 1 ホームページの利便性の向上と広報の充実

- インターネット出願の導入を開始しました。
- 入試説明会等の申し込み方法を簡略化しました。

#### 2 教員による塾・中学校訪問の継続強化

- 訪問した塾数が大幅に増加しました。

#### 3 平成29年度目標 国公立大学30名合格

- 達成年度(平成29年度)入試実績: 23名
- 東京電機大学への学内推薦者数: 18名



## 3. 財政健全化

財政健全化実行計画に基づき、収入面では、平成30年度の大学院学費を値上げすることを決定しました。支出面では、東京千住キャンパス第2期計画を考慮した資金計画を策定し、さらに平成29年度予算では諸経費の一部前倒し削減を実施し、一層の経費削減を図りました。

目標である平成32年の事業活動収支差額比率10%以上、第2号基本金積み立ての達成を目指すべく、学園運営状況と連動した主体的で活力を生む財政運営が今後の課題となりました。

### 1. 学費改定による学生生徒等納付金を含む各種収入の増加

#### 1 大学院、大学の学費改定の検討

- 平成30年度大学院学費を当初計画どおり4万円値上げを決定しました。
- 大学については、平成30年度学費(教育充実費)の値上げを大学学費検討委員会で審議しました。

#### 2 各種補助金の増額

- 経費補助金の一般補助において、収容定員に対する在籍学生数の割合による増減率の改善などにより、平成27年度に比べ約9,200万円増加しました。
- 特別補助、私立大学改革総合支援事業の採択数の増加等により、約1,800万円増加しました。

### 2. 事業活動収入に対する人件費比率45%以下を目指す人件費を含む経費の削減

#### 1 人件費の圧縮について

- 事務・技術系職員の給与体系の見直しは、諸情勢により再検討することを決定しました。

#### 2 経費の削減について

- 平成32年度までに段階的に削減する各事務部署経費、研究費、学科関係予算の削減を一部前倒しで実施しました。



## 4. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

副学長設置による寄附行為の変更のほか、新学長選考制度を受けた全学統一方式による学部長、研究科委員長選考規程(先端科学技術研究科を除く)を制定、任期を迎えた評議員、理事について選任を行いました。また情報セキュリティ強化体制の整備を行うとともに、マネジメントレビュー会議を開催しました。なお大学基準協会の認証評価を受審し適合認定を受けました。学生・生徒への最高の教育の提供を目指し、社会ニーズや環境変化に適切に対応できる大学運営体制の確立と教職員の意識改革が今後の課題となりました。

### 1. ガバナンスの構築とコンプライアンス

#### 1 大学の適切で迅速な意思決定のための見直しと改善

- 学長と一体的に大学運営にあたる学部長、研究科委員長を選出する全学統一方式とする新たな学部長、研究科委員長選考規程(先端科学技術研究科を除く)を制定しました。
- 平成28年度から、大学評議会と大学調整連絡会議の本格的運営を開始しました。

#### 2 教職員のコンプライアンスの徹底

- 内部監査として、科研費他の公的資金に係る内部監査などを実施しました。
- 公的研究費使用説明会等におけるコンプライアンス教育を実施しました。
- CSIRT(コンピュータセキュリティインシデント対応チーム)の立ち上げ、情報セキュリティ戦略会議規程の制定、ネットワークセキュリティの強化、情報倫理教育の実施等を行いました。

#### 3 評議員及び理事の選任

- 平成28年度中に任期を迎えた評議員(職員評議員、役職評議員)並びに理事(評議員理事、役職理事)を理事会並びに評議員会において選任しました。

#### 4 寄附行為の一部変更

- 副学長設置を踏まえ役職理事の選任対象者、役職評議員として副学長の追加等を行いました。

### 2. 管理運営組織の見直し

東京千住キャンパス事業部の設置と、業務知識の継続性、後進の指導を主眼とする特定分野に特化した指導的立場の管理職者として新たに専門部長を設置しました。

### 3. 人事諸施策の策定

#### 1 給与体系の見直し

- 実施時期変更(平成30年度)に伴う原案の再検討を行いました。

#### 2 嘱託制度の見直し

- 大学教員：定年延長に伴う財政面(人件費)の検証を行いました。
- 中学校・高等学校教員：定年延長に伴う財政面(人件費)の検証を行いました。
- 事務・技術職員：平成29年4月嘱託採用者について、勤務評価及び業務内容に応じて嘱託採用時の俸給を決定しました。

#### 3 評価システムの導入

- 大学教員：模擬施行2年目としてIRセンターと協力し、教員評価の基礎データとなる研究者情報データベースの定義作成、複数評価体制やエフォート申請制度の確立等の改善を行いました。(受審教員数倍増の目標を達成)
- 事務・技術職員：賞与及び昇格試験へ評価を適用しました。
- 中学校・高等学校：他私立中高の状況を踏まえ検討を継続しました。

#### 4 望まれる教職員像の確立

- 中学校・高等学校教育職員：本校独自の職責及び任用基準に基づいた教員像の策定を検討しました。



### 4. IR活動の推進(法人系)

一次調査としてデータ項目調査・検討をしました。

## 5. 継続する諸課題

中長期計画に含まれない継続的な主要事業について、次の通り実施しました。

### 1. 卒業生(校友会)との連携

「仕事研究セミナー」等、多様な連携を継続しメールマガジン発行も開始しました。さらなる連携に向けて、基盤となる学園と卒業生のデータベースの連携が急務です。

#### 1 会員の維持及び新規獲得に向けた会員サービスの充実・強化

- 9月より月刊の校友会メールマガジンの配信を開始しました。
- 準会員への「正会員へのお誘い」送付等による会勢拡張活動を行いました。

#### 2 学園との連携強化

- 仕事研究セミナーへの参画、全学行事(学園祭、体育祭等)補助、クラブ活動補助等、教職校友会からの推薦入学などを実施しました。
- 学園活動にも活用できる卒業生情報データベースの改善策を策定しました。

### 2. 「学校法人東京電機大学サポート募金」活動の推進

寄付による学園支援の意識醸成を目指し、目標達成に向け在校生を含めた効率的、効果的で妥当性のある寄付環境の整備が求められます。

#### 1 寄付の申込み状況

- 平成28年度の寄付金は1億374万円でした。目標額(1億6,000万円)に対する達成率は64.5%でした。なお件数は前年度より20%増で958件となりました。

#### 2 募金の活動状況

- 募金活動の1つであるダイレクトメールによる寄付依頼を送付しました。

#### 3 寄付感謝の集いの開催

- 一定額以上の寄付者を対象とした寄付感謝の集いを開催しました。

#### 4 新たな募金方法の導入

- インターネットを利用した募金方法の導入、コンビニエンスストア・ATM・ネットバンキングや銀行口座からの引落しなどによる複数の募金方法を導入しました。

### 3. 収益事業(出版局)

出版不況の厳しい環境が続きました。学園創立以来の伝統を踏まえ、大学との連携による教育支援、知の社会還元さらに広報機能をも担う出版事業の体制見直しを図りました。

#### 1 収益事業である出版事業の体制整備・推進

- 外注による書店訪問により全国主要書店の店頭在庫のチェックを行い、受注を継続しました。
- 取次にネット書店向け在庫を設け出荷までの時間短縮を図りました。
- アマゾンの販売データに基づく売れ行き良好書情報を営業材料としました。

#### 2 出版事業の維持と企画・編集体制の強化

- 新規分野、著者開拓の成果として理工系大学出版ならではの書籍を刊行しました。
- 本学教授陣による教科書『理工系のための一般化学』や実験書を刊行しました。
- 編集プロダクションの活用による業務効率の向上を図りました。

# 財務情報

- 財務ハイライト
- 資金収支計算
- 事業活動収支計算
- 貸借対照表



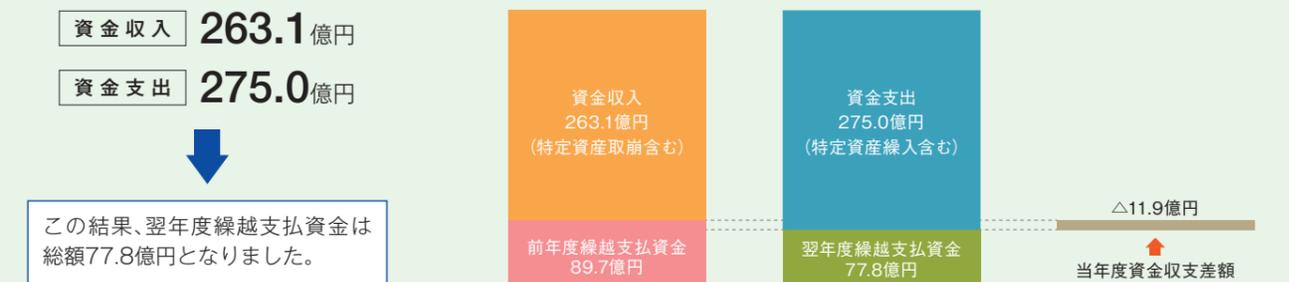
## 財務の概要 (平成28年度)

※千円単位および百万円単位等で表示する際に単位未満を四捨五入しているため、端数調整のため差異が生じる場合があります。また、予算、決算において、全て0円の科目は表示を省略しています。

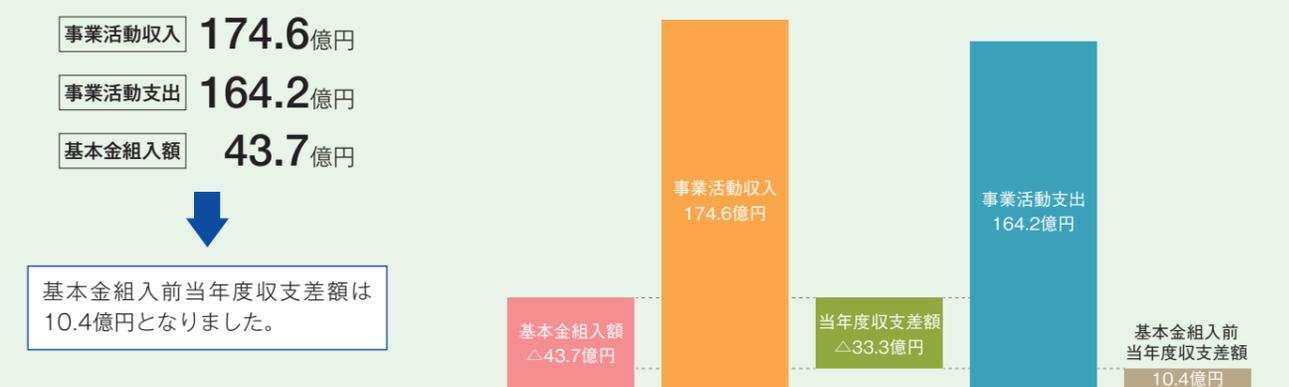
### 財務ハイライト

学校法人東京電機大学の平成28年度決算は、平成29年5月30日開催の評議員会・理事会において承認されました。平成28年度決算の概要は、予算(平成28年3月23日評議員会・理事会承認)との比較において、次のとおりです。

### 資金収支計算



### 事業活動収支計算



### 貸借対照表 平成28年度末(平成29年3月31日)



## 平成28年度に学園が優先的に取り組んだ主な事業の経費

### 【一般会計】

#### (1) 施設・設備改修事業

事業内容	経費
埼玉鳩山キャンパス 11・12号館空調機改修工事	88,802
埼玉鳩山キャンパス 6・8号館トイレ改修工事	
千葉ニュータウンキャンパス 運動施設改修工事	
東京小井キャンパス 1・2号館トイレ改修工事	
計	88,802

#### (2) 教育設備更新事業

事業内容	経費
東京千住キャンパス 核磁気共鳴スペクトル測定装置 表面形状観察装置	50,000
計	50,000

### 【特別事業会計】

#### (1) 拡充事業(キャンパス整備事業)

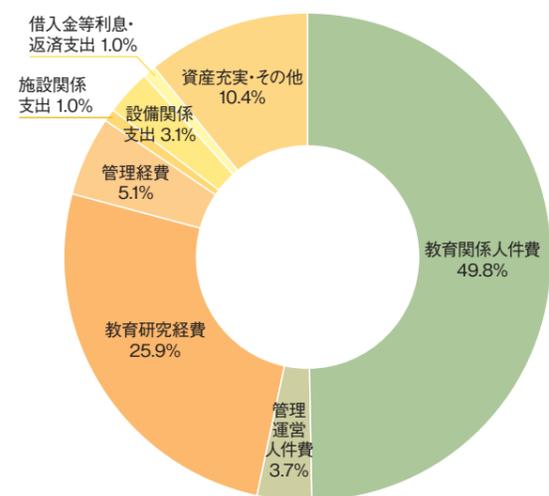
事業内容	経費
東京千住キャンパス 第2期計画事業	7,792,064
計	7,792,064

#### (2) 臨時・新規事業

事業内容	経費
埼玉鳩山キャンパス 40周年記念事業グラント整備	364,900
埼玉鳩山キャンパス 3号館バリアフリー工事	36,720
埼玉鳩山キャンパス 6・7号館エレベータ更新工事	42,984
埼玉鳩山キャンパス 非常用発電機設置工事	43,200
東京小井キャンパス 2号館(体育館)アリーナ天井等改修工事	27,054
新学部設置(既存学科の改編含む)に係る機器備品購入	136,578
ものづくりセンター機械装置類購入	96,487
図書館業務システム	24,300
特別広報費	109,895
計	882,118

## 学生一人当たりの学費の使われ方 (平成28年度決算数値より)

平成28年度の学費収入と国や地方公共団体等からの補助金収入を100とした場合の使用状況は次のとおりです。



経費の内訳	比率
教育関係人件費	49.8%
管理運営人件費	3.7%
教育研究経費	25.9%
管理経費	5.1%
施設関係支出	1.0%
設備関係支出	3.1%
借入金等利息・返済支出	1.0%
資産充実・その他	10.4%

次のページから学校法人会計基準に基づく平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務計算書を報告いたします。

## 資金収支計算

### 資金収支計算書について (学校法人会計基準第6条の要旨)

当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入および支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

### 収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	13,630,791	13,753,391	△ 122,600
手数料収入	624,502	597,456	27,046
寄付金収入	216,000	263,025	△ 47,025
補助金収入	1,695,256	1,830,330	△ 135,074
資産売却収入	350,000	855,939	△ 505,939
付随事業・収益事業収入	411,537	408,768	2,769
受取利息・配当金収入	282,323	249,903	32,420
雑収入	258,034	308,539	△ 50,505
借入金等収入	0	200	△ 200
前受金収入	2,466,313	2,565,931	△ 99,618
その他の収入	7,908,775	8,063,808	△ 155,033
資金収入調整勘定	△ 2,342,388	△ 2,585,305	242,917
前年度繰越支払資金	8,614,243	8,972,965	-
収入の部合計	34,115,386	35,284,950	△ 1,169,564

### ■予算と決算の差異の主な理由

#### ①収入の部

- 学生生徒等納付金収入(122,600千円増加)**  
学部の学費納入者が積算人数より増加し、納付額が予算計上額を上回りました。
- 手数料収入(27,046千円減少)**  
入学志願者数が積算人数より減少し、入学検定料収入が予算計上額を下回りました。
- 寄付金収入(47,025千円増加)**  
サポート募金への寄付金は目標額を達成できませんでしたが、公益財団法人等から高額の研究奨励寄付金を受けたことにより、予算計上額を上回りました。
- 補助金収入(135,074千円増加)**  
国庫補助金の私立大学等経費補助金(一般補助)において、補助要件に対する本学の取組状況の改善により、当該補助項目の増減率が見直され補助率が上昇し、補助金収入が予算計上額を上回りました。
- 資産売却収入(505,939千円増加)**  
債券の早期償還および株式の自主的売却により、売却収入が予算計上額を上回りました。
- 受取利息・配当金収入(32,420千円減少)**  
債券の早期償還および金利低下により、予定した受取利息が確保できませんでした。
- 雑収入(50,505千円増加)**  
依頼退職者の増加により、私学財団および私立大学退職金財団の交付金収入が予算計上額を上回りました。
- その他の収入(155,033千円増加)**  
前年度確定数値(前期末未収入金収入等)が予算に計上されていないため差異となりました。

### 支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,334,156	8,347,302	△ 13,146
教育研究経費支出	4,505,930	4,412,263	93,667
管理経費支出	1,051,003	946,453	104,550
借入金等利息支出	9,075	9,074	1
借入金等返済支出	138,920	139,120	△ 200
施設関係支出	8,851,000	7,883,462	967,538
設備関係支出	832,025	1,066,719	△ 234,694
資産運用支出	3,804,693	4,493,746	△ 689,053
その他の支出	241,050	464,290	△ 223,240
予備費	(97,030) 2,970		2,970
資金支出調整勘定	0	△ 262,960	262,960
翌年度繰越支払資金	6,344,564	7,785,481	△ 1,440,917
支出の部合計	34,115,386	35,284,950	△ 1,169,564

### ■予算と決算の差異の主な理由

#### ②支出の部

- 人件費支出(13,146千円増加)**  
依頼退職者の増加により、退職金が予算計上額を上回りました。
- 教育研究経費支出(93,667千円減少)**  
光熱水費を始めとする全般的な経費節減、実施予定事業の一部計画の変更等により、予算計上額を下回りました。
- 管理経費支出(104,550千円減少)**  
広報関連経費を始めとする全般的な経費節減等により、予算計上額を下回りました。
- 施設関係支出(967,538千円減少)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業予算の未使用および振替(設備関係支出への振替)により、予算計上額を下回りました。
- 設備関係支出(234,694千円増加)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業予算の振替(施設関係支出からの振替)により、予算計上額を上回りました。
- 資産運用支出(689,053千円増加)**  
当年度減価償却額の確定および減価償却引当特定有価証券が早期償還されたことに伴う減価償却引当特定資産の繰入、次年度繰越額の確定に伴う委託研究等引当特定預金の繰入、サポート募金事業引当特定預金の繰入等により、予算計上額を上回りました。
- その他の支出(223,240千円増加)**  
前年度確定数値(前期末未払金支払支出)が予算に計上されていないため差異となりました。

## 事業活動収支計算

### 事業活動収支計算書について (学校法人会計基準第15条の要旨)

当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、①、②以外の活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

科目	予算	決算	差異
教育活動収支差額	63,598	675,339	△ 611,741
教育活動外収支差額	279,248	244,222	35,026
経常収支差額	342,846	919,561	△ 576,715
特別収支差額	190,500	122,918	67,582
予備費	7,861		7,861
基本金組入前 当年度収支差額	525,485	1,042,479	△ 516,994
基本金組入額合計	△ 6,128,004	△ 4,376,313	△ 1,751,691
当年度収支差額	△ 5,602,519	△ 3,333,834	△ 2,268,685
前年度繰越収支差額	△ 12,967,107	△ 12,396,734	△ 570,373
基本金取崩額	0	94,000	△ 94,000
翌年度繰越収支差額	△ 18,569,626	△ 15,636,569	△ 2,933,057

(参考)

事業活動収入計	17,118,443	17,465,266	△ 346,823
事業活動支出計	16,592,958	16,422,787	170,171

基本金の組入額・取崩額の内訳および平成29年3月末基本金は、次のとおりです。

	基本金組入額 (基本金取崩額)	平成29年3月末 基本金
<b>〈第1号基本金〉</b>		<b>150,931,881千円</b>
本年度取得資産額 (自己資金による支払分)	8,950,181千円	
本年度取得資産額 (寄贈分)	37,613千円	
本年度取得資産に係る 未払金計上額	△ 66,560千円	
前年度取得資産に係る 未払金の本年度支払額	183,239千円	
過年度取得資産に係る 借入金返済金額	138,920千円	
本年度除却額	△ 1,367,079千円	
第2号基本金からの 振替額	△ 4,000,000千円 3,876,314千円	
<b>〈第2号基本金〉</b>		<b>0千円</b>
本年度組入額	500,000千円	
<b>〈第3号基本金〉</b>		<b>5,500,000千円</b>
該当なし		
<b>〈第4号基本金〉</b>		<b>1,120,000千円</b>
取崩額	(94,000千円)	

### ■予算と決算の差異の主な理由

- ①教育活動収支差額(611,741千円増加)**  
【経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況】  
事業活動収入では、学生生徒等納付金、寄付金(施設設備寄付金、現物寄付以外の寄付金)、補助金、雑収入が増加し、事業活動支出では、教育研究経費と管理経費が経費節減や計画の一部見直し等により減少したため、教育活動収支差額は予算計上額を大幅に上回りました。
- ②教育活動外収支差額(35,026千円減少)**  
【経常的な収支のうち、財務活動による収支状況】  
事業活動収入の受取利息、配当金が債券の早期償還および金利低下の影響を受け減少したことにより、教育活動外収支差額は予算計上額を下回りました。
- ③経常収支差額(576,715千円増加)**  
【経常的な収支バランス:①教育活動収支差額+②教育活動外収支差額】  
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、経常収支差額は予算計上額を上回りました。
- ④特別収支差額(67,582千円減少)**  
【資産売却や処分等の臨時的な収支状況】  
教育研究用機器備品および図書を除却に伴う資産処分差額を計上したため、特別収支差額は予算計上額を下回りました。
- ⑤基本金組入前当年度収支差額(516,994千円増加)**  
【毎年度の収支バランス[旧帰属収支差額]】  
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額の増加が影響した結果、基本金組入前当年度収支差額は予算計上額を上回りました。
- ⑥基本金組入額合計(1,751,691千円減少)**  
【学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額】  
施設関係支出の減少、資産除却額の増加、機械装置備品の期末未払金が増加したことにより、基本金組入額は予算計上額を大幅に下回りました。
- ⑦基本金取崩額(94,000千円増加)**  
第4号基本金(恒常的に保持すべき資金)の変更であり、以下の計算により算出された額とするために必要な変更(取崩)を行いました。

前年度の事業活動収支計算書における教育活動収支の人件費(退職給与引当金繰入額および退職金を除く)、教育研究経費、管理経費(共に減価償却額を除く)および教育活動外収支の借入金等利息の決算額の合計を12で除した額(100万円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てることできる)

## 貸借対照表

### 貸借対照表について (学校法人会計基準第32条の要旨)

資産の部、負債の部および純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して、当該会計年度末の財産の状態を表すものです。

### 資産の部

(単位:千円)

科目	年度	H27末	H28末	増減
固定資産		140,129,025	142,244,250	2,115,225
有形固定資産		106,236,173	112,531,970	6,295,797
特定資産		32,630,316	28,468,061	△ 4,162,255
その他の固定資産		1,262,536	1,244,219	△ 18,317
流動資産		9,187,168	8,019,937	△ 1,167,231
資産の部合計		149,316,193	150,264,187	947,994

### 負債及び純資産の部

(単位:千円)

科目	年度	H27末	H28末	増減
負債の部		8,443,361	8,348,875	△ 94,485
固定負債		4,659,751	4,452,746	△ 207,005
流動負債		3,783,610	3,896,129	112,519
純資産の部		140,872,832	141,915,312	1,042,479
基本金		153,269,567	157,551,881	4,282,314
繰越収支差額		△ 12,396,735	△ 15,636,569	△ 3,239,834
負債及び純資産の部合計		149,316,193	150,264,187	947,994

※わかりやすくするため、決算報告書の貸借対照表と年度の並び順を変更して表示しています。

### ■貸借対照表各科目の主な増減理由

- ①資産の部**
  - 有形固定資産(6,295,797千円増加)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業費により、有形固定資産が増加しました。
  - 特定資産(4,162,255千円減少)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業費として第2号基本金全額を第1号基本金へ振替えたため、特定資産は減少しました。
  - その他の固定資産(18,317千円減少)**  
長期貸付金の中の住宅貸付金の返済により、その他の固定資産は減少しました。
  - 流動資産(1,167,231千円減少)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業等の支払により、現金預金が増加しました。
- ②負債の部**
  - 固定負債(207,005千円減少)**  
リースの長期未払金及び長期借入金のうち、1年未満に支払・返済予定の金額を短期へ振替して減ったため、固定負債は前年度より減少しました。
  - 流動負債(112,519千円増加)**  
授業料等の前受金の増加に伴い、流動負債が増加しました。
- ③純資産の部**

〈基本金〉

  - 第1号基本金(7,876,314千円増加)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業費、自己資金による固定資産の取得、借入金返済等により、基本金を組入れました。
  - 第2号基本金(3,500,000千円減少)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業費に充当するため、平成21から27年度にかけて組入れた基本金を全額第1号基本金に振替えました。
  - 第4号基本金(94,000千円減少)**  
学校法人会計基準第30条第1項第4号(恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額)に基づき算出された額へ変更(取崩)したことにより、第4号基本金が減少しました。

〈繰越収支差額〉

  - 翌年度繰越収支差額(3,239,834千円増加)**  
東京千住キャンパス第2期計画事業の実施により、繰越収支差額(基本金組入前当年度収支差額-基本金組入額)が増加しました。

## 活動区分資金収支計算書[付表]

活動区分資金収支計算書について (学校法人会計基準第14条の2要旨)

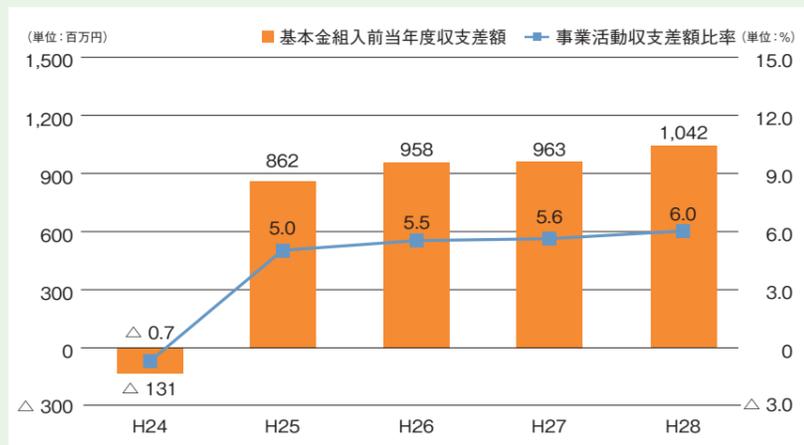
資金収支計算書を組み替えて、現預金の流れを活動区分ごとに把握できます。

区分	金額	内容説明
教育活動資金収支差額	34.9億円	キャッシュベースでの本業の教育活動の収支状況を見ることができます。
施設整備等活動資金収支差額	△ 47.1億円	当年度に施設設備の購入等があったか、財源がどうだったかを見ることができます。
その他の活動資金収支差額	0.3億円	借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。
支払資金の増減	△ 11.9億円	

## 経年比較

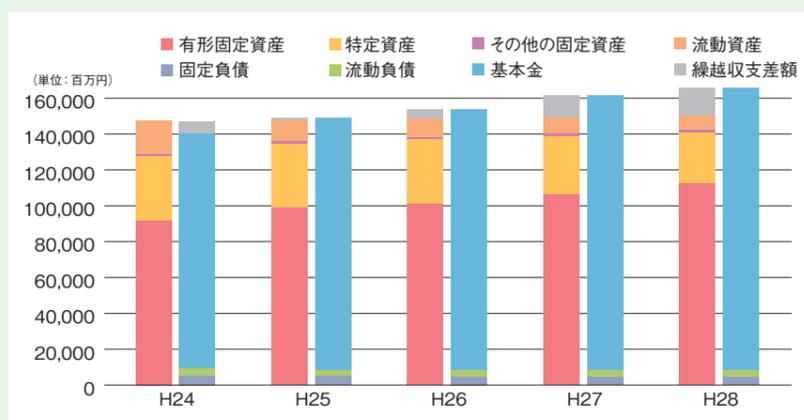
### 事業活動収支差額比率の推移

経営状況を表す財務指標である事業活動収支差額比率(基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入×100% : この値は高い値が良い)の平成24年度から平成28年度までの数値は次のとおりです。



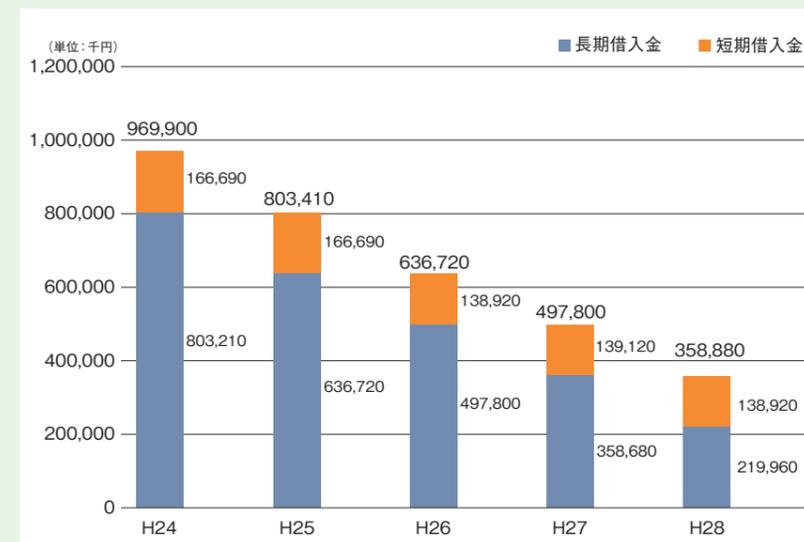
### 貸借対照表の推移

平成24年度から平成28年度までの数値は、次のとおりです。



## 借入金残高の推移

新たな借入れを行わず、計画に基づく返済を行った結果、借入金残高は減少しました。また、平成28年度末の自己資金に対する借入金等の割合、いわゆる負債比率(総負債÷純資産: この値は低い値が良い)は、約5.0%となっています。右表のとおり順調に減少傾向にあり、平成31年度までには、現在の借入金残高を完済する予定です。

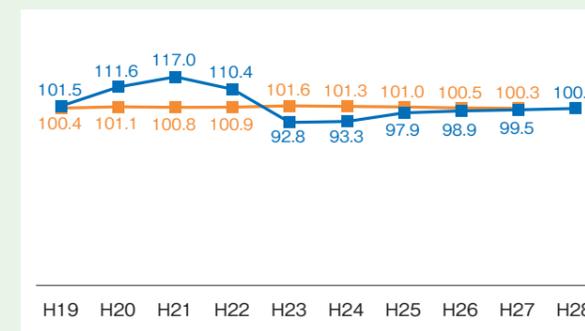


※1 長期借入金は、返済期限が貸借対照表日後1年を超えて到来するものです。  
 ※2 短期借入金は、返済期限が貸借対照表日後1年以内に到来するものです。

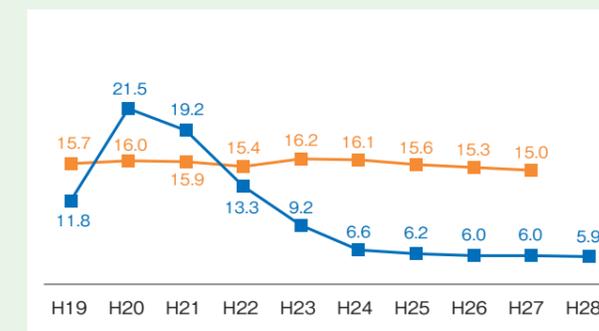
## 財務比率の推移

■ H26理工他複数学部平均(平成27年度版「今日の私学財政」より)です。  
 ■ 本学(東京電機大学)の数値です。

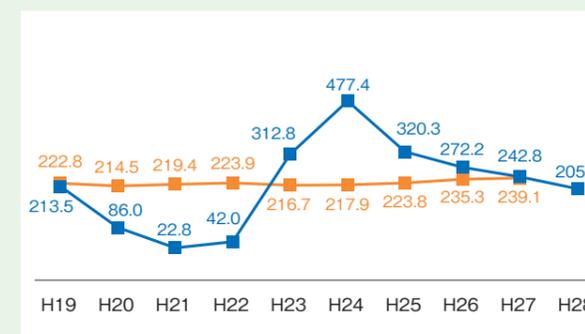
固定比率(%)…固定資産÷純資産  
 (この比率は低い値が良い)



負債比率(%)…総負債÷純資産  
 (この比率は低い値が良い)



流動比率(%)…流動資産÷流動負債  
 (この比率は高い値が良い)



純資産構成比率(%)…純資産÷(総負債+純資産)  
 (この比率は高い値が良い)



# Information & DATA

## ■ 大学院各研究科の取り組み

### 先端科学技術研究科

- ① 研究指導體制の充実と継続的な課程博士、論文博士の輩出に努めました。(平成28年度課程博士4名、論文博士3名) 論文作成に必要な基礎知識や倫理観、語学力、俯瞰的なものの見方等の涵養を目的とするコースワーク科目を充実させました。
- ② 博士課程(後期)における修了要件の取扱いについて、大学院教育の実質化、コースワークの充実の施策等と調和をとるため修了要件の取扱いを一部変更し、平成29年4月入学生より修士課程科目を博士課程(後期)の修了要件に含めないものとなりました。
- ③ 先端科学技術研究科、工学研究科、未来科学研究科の研究成果発表会を平成29年2月10日に合同開催しました。発表会は学外者および卒業生にも公開され、学部生を含め、計525名が参加しました。

### 工学研究科

- ① 大学院生が社会で活躍する科学者・技術者に求められる倫理的素養を身に付けることを目的とし、大学院科目「研究者倫理」を新設しました。(未来科学研究科共通)
- ② 先端科学技術研究科との整合性を保つため、教員選考における業績評価の見直しを行い、平成28年度から新たな評価基準を導入しました。(未来科学研究科共通)
- ③ グローバル人材育成の一環として、英語によるプレゼンテーション能力を涵養するため「Practical English for Global Engineers」を開講し、海外協定校の1つであるコロラド大学から講師を2名招聘し、少人数グループ編成で実施しました。(未来科学研究科・情報環境学研究科共通)

### 未来科学研究科

- ① 「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に選定された「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」を履修証明プログラムとして運用し、平成28年度は、27名が修了しました。また、当プログラムは文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)に認定され、平成29年度受講者より一定の要件を満たせば教育訓練給付制度が利用できることとなりました。
- ② 建築学専攻およびロボット・メカトロニクス学専攻への学内進学率が、前年度に引き続き40%超を達成しました。
- ③ 研究指導実施体制の充実に向けて、定期的に指導教員と副指導教員が研究計画書を用いて面談を行うこととする運用を平成29年度入学生から実施することとしました。

### 理工学研究科

- ① 理工学研究科および専攻毎に行うガイダンス、就職行事として行う就職ガイダンスなど、学部学生に対する理工学研究科の紹介を実施し、大学院への進学率向上に努めました。
- ② 理工学研究科学内推薦入試(A日程)に合格した学部4年次の21名を本学協定校の中原大学(台湾)に7月の約3週間派遣し、海外研修を実施しました(平成29年度実施も決定)。また、事前準備として理工学研究科共通科目「科学英語」を先取り履修させることや同「国際化プロジェクト」を平成29年度に開講し、海外研修後の単位認定を決定しました。
- ③ 埼玉県と県内にキャンパスを構える18大学が協力して、授業科目の一部を県内在住の55歳以上の方が受講できるように開放したりカレント教育を実施するとともに、理工学研究科の授業科目の一部を一般に開放した「公開科目」を実施しました。

### 情報環境学研究科

- ① 修士論文・研究成果報告の審査の取扱いをより厳正に実施するため、審査における部門長の役割を定義したうえで公聴会・審査会を実施しました。
- ② 研究指導體制充実のため、副査の学生に対する研究指導面談を平成28年度より実施しました。研究指導面談後、報告書を取りまとめ担当教員(部門長)・主査へ提出することを義務化しています。
- ③ 学生の意欲向上のため、大学院実力コンテストの「ビブリオバトル」に代わり、本研究科主催の「アイデアコンテスト」を実施しました。また、学術貢献賞の授与などを継続して実施しました。

### 大学院専攻一覧

<b>先端科学技術研究科</b>	博士課程(後期): 数理学専攻 電気電子システム工学専攻 情報通信メディア工学専攻 機械システム工学専攻 建築・建設環境工学専攻 物質生命理工学専攻 先端技術創成専攻 情報学専攻
<b>工学研究科</b>	修士課程: 電気電子工学専攻/電気電子システムコース 電気電子工学専攻/電子光情報コース 物質工学専攻 機械工学専攻/機械工学コース 機械工学専攻/先端機械コース 情報通信工学専攻
<b>未来科学研究科</b>	修士課程: 建築学専攻 情報メディア学専攻 ロボット・メカトロニクス学専攻
<b>理工学研究科</b>	修士課程: 理学専攻 生命理工学専攻 情報学専攻 電子・機械工学専攻 建築・都市環境学専攻
<b>情報環境学研究科</b>	修士課程: 情報環境学専攻

## 各学部の取り組み

### 工学部

- 1 平成29年4月の「電子システム工学科」「応用化学科」「先端機械工学科」の3学科新設に向けた体制を整えました。
- 2 平成29年度1年生より東京千住キャンパスでは、カリキュラム改編が行われ、社会において学び続け活躍するため、必要な理工学の基礎知識、技術者としての倫理・素養を教育する新共通教育プログラムを実施する体制を整えました。(工学部・未来科学部・システムデザイン工学部共通)
- 3 成績不振の学生を早期に支援し修学意欲を向上させるとともに、今後の進路について考える機会を与えることを目的として、修学指導(退学予備勧告)および特別修学指導(退学勧告)の制度を導入し、運用を開始しました。(工学部第二部・未来科学部・システムデザイン工学部共通)
- 4 平成29年度の改編に伴う学部および学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直し、共通教育および専門科目のカリキュラムの再構築を行いました。(工学部第二部・未来科学部共通)

### 工学部第二部

- 1 大学進学に関心があり、働きながら就学する学習意欲のある新社会人(高校新卒者)を対象とした新たな入試制度として「はたらく学生入試」の実施に向けた検討を行いました。
- 2 社会経験を有する学生の特長を生かし、さらなるスキル・キャリアアップを図る教育課程として「社会人課程(実践知重点課程)」の新設に向けた検討を行いました。
- 3 社会人学生の修学環境の利便性を考慮した「メディアを利用して行う授業」の導入の一環として、社会人コースにおける放送大学との単位互換制度の導入について、平成29年度実施に向けた整備を図りました。
- 4 社会人学び直しの社会的ニーズに応えるため、定員増に向けた検討を行いました。

### 未来科学部

- 1 建築学科では、学びの分野を5分野で構成し、30名の定員増を実施しました。
- 2 文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」(アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化の複合テーマ)選定に伴い、反転授業、ルーブリック、e-ポートフォリオ等の導入等、目標達成に向けて計画的に各種事業を実施しました。
- 3 文部科学省の平成28年度「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」におけるセキュリティ分野の重点拠点として情報セキュリティに特化した専門的な講義、演習を学部生に向けて実施するため、科目を新設するなど準備を進めました。
- 4 未来科学キャリアワークショップ、未来科学プロジェクト等のPBL科目の継続により、学生の就業力、人間力、社会人基礎力を涵養する教育体制をより一層充実しました。

### システムデザイン工学部

- 1 平成29年度の「情報システム工学科」「デザイン工学科」の1学部2学科の新設に向けた体制を整えました。
- 2 新学部・新学科の学生募集活動を展開しました。(工学部・未来科学部共通)

### 理工学部

- 1 平成30年4月からの理工学部改編を目指し、6学系16コースの学系構成策定、学系間や大学院と連携する新たな横型・縦型連携システムとしてオナズプログラム(次世代技術者育成プログラム)を設置すること等を策定しました。
- 2 理工学部の基礎教育編成および学習サポートセンターの管理運営等の教育充実を支援するために、「理工学部基礎教育センター」を平成28年4月に設置しました。執務室を学習サポートセンター教員室と共有化し、教員同士の情報共有や連携強化を図るとともに、入学前教育やプレースメントテストの実施方法の検討の他、各学系との定期的な打合せに基づき、平成30年度実施の理工学部改編に向けた「理工学部新共通教育プログラム」を策定しました。
- 3 地域との連携による東武東上線北坂戸駅前の「東京電機大学北坂戸にぎわいサロン」の運営や、「子ども大学はとやま」の実施、大学主催の公開講座「オーケストラを楽しもう」、「夏休みサッカークリニック」の実施、埼玉県内の大学間連携である「彩の国大学コンソーシアム」に積極的に取り組みました。

### 情報環境学部

- 1 平成29年度学生募集停止ならびに平成30年4月の東京千住キャンパスへのキャンパス移転について、平成28年度入学式後のキャンパス見学会およびキャンパス父母懇談会において保証人に周知しました。また、平成29年度以降の開講科目の基本方針を保証人へ周知しました。
- 2 平成29年度開設のシステムデザイン工学部の担当者が情報環境学部を兼務することにもなう平成29年度の情報環境学部の教育システムの調整を実施しました。
- 3 地域連携活動の一つとして、運営協力に関する協定を締結する保育園と運動会、ハロウィンパレード、クリスマス発表会等をキャンパス内の施設で開催しました。また、NPO TIAC(ティアック)交流会・講演を開催しました。「マイペースパソコン塾」連携事業は、地域に根差した活動がなされ、研究成果の公開や、学生ボランティアの参加などから教育研究活動の推進に寄与し、大学評価(認証評価)で評価されました。

## 教育研究機関との連携

### 他大学との連携

本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学で構成する東京理工系4大学では、各大学で開講する学部および大学院修士課程の授業を履修できる「単位互換制度」、いずれの大学院にも特別推薦により進学できる特別推薦入試制度などの連携を行っています。

他にも、首都大学院コンソーシアム、彩の国大学コンソーシアム、日本医科大学との連携、山形大学工学部、日本工業大学等との学術連携協力のほか、足立区6大学(放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、文教大学、本学)で連携し、学長会議を実施しました。また本学は、文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の第2期(学部生向け)セキュリティ分野において、東北大学をはじめとする11の大学のうちの1大学として採択されました。情報セキュリティ分野における実践的人材の育成を目指し、11大学が連携してBasic SecCapというコースを共同運営し、講義および演習(PBLを含む)を相互に提供しています。本コース修了者には、コース修了認定証が授与されます。

### 研究機関との連携(連携大学院方式)

学外の研究機関と連携して、大学院生の研究指導を行う「連携大学院方式」を導入し、研究領域の多様化と研究内容の拡大を図り、大学院教育の活性化を目指しています。最新の設備と機器を備えた研究機関において、また客員教授として迎える科学者のもとで、研究指導を受けることができます。連携先および客員教授は今後も拡大を図る予定です。

#### 《連携研究機関》

国立研究開発法人 理化学研究所 / 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 一般財団法人 電力中央研究所 / 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 / 国立研究開発法人 海上技術安全研究所 / 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 / 国立研究開発法人 情報通信研究機構 / 日本放送協会 放送技術研究所 / 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 / 日本電信電話株式会社 (NTT物性科学基礎研究所)

### 海外協力校および交流のある海外大学(全23校)

アメリカ	コースタルコロライナ大学、コロラド大学ボルダー校、パデュー大学、マーシャル大学、アーカンソーテック大学
オーストラリア	シドニー大学
韓国	大邱大学校、ソウル科学技術大学、全北大学校
中国	大連理工大学、同濟大学、北京科技大学、新疆大学
台湾	中原大学
フランス	フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSMM)
フィンランド	ラップランド応用科学大学
エストニア	タリン工科大学
インド	チャンディーガル大学
ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学
インドネシア	ヌサンタラ・マルチメディア大学
マレーシア	マラ工科大学、マレーシア工科大学
タイ	泰日工業大学

## 教育の取り組みの成果

### 学生の受賞・表彰

学会やコンクールでの発表などで、大学院生や学部生が様々な受賞や表彰を受けています。

#### 博士 個人

**松尾 綾子** (先端研 博士2年)  
人間・環境学会 第23回大会「発表賞」  
**久山 真宏** (先端研 博士2年)  
情報処理学会 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム「優秀プレゼンテーション賞」

#### 修士 個人

**高梨 兼佑** (工研 修士2年)  
一般社団法人電気設備学会 全国大会2016年(第34回)「全国大会発表奨励賞」  
**春日 衛** (工研 修士2年)  
一般社団法人電気設備学会 全国大会2016年(第34回)「全国大会発表奨励賞」  
**會見 春奈** (工研 修士2年)  
平成28年度電気学会 電子・情報・システム部門大会「Outstanding Student Presentation Award」  
**中川 佑紀** (工研 修士2年)  
平成28年度電気学会 電子・情報・システム部門大会「Outstanding Student Presentation Award」  
**笹原 知博** (工研 修士2年)  
電子情報通信学会「学術奨励賞」  
**武井 裕輔** (工研 修士1年)  
・第32回 ライフサポート学会「ハリアフリーシステム財団奨励賞」  
・平成28年度春季フルードパワーシステム講演会「最優秀講演賞」

**五木 雄三** (工研 修士1年)  
The 38th Annual Meeting and Symposium of the Antenna Measurement Techniques Association (AMTA)「Student Paper Award 第2位」  
**大宮 健太** (工研 修士1年)  
平成28年度電気学会東京支部カンファレンス「電気学会東京カンファレンス優秀発表賞」  
**篠原 尚希** (工研 修士1年)  
平成28年度電気学会東京支部カンファレンス「電気学会東京カンファレンス優秀発表賞」

**山本 健造** (工研 修士1年)  
・電子情報通信学会 東京支部学生会 第22回研究発表会「東京支部学生奨励賞」  
・電子情報通信学会「回路とシステム研究会学生優秀賞」

**工藤 賢哉** (工研 修士1年)  
2016年度照明学会全国大会「全国大会優秀ポスター発表者賞」  
**鈴木 雅之** (工研 修士1年)  
2016年度照明学会全国大会「全国大会優秀ポスター発表者賞」  
**野地 健太** (工研 修士1年)  
2016年度精密工学会北海道支部 学術講演会「優秀プレゼンテーション賞」

**市川 雄太** (工研 修士2年)  
第17回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会「優秀講演賞」  
**山岸 航平** (工研 修士1年)  
第17回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会「優秀講演賞」  
**二敷 拓人** (工研 修士1年)  
Internatinal Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP)「Student Paper Award」

**松原 嵩** (工研 修士2年)  
平成29年度電気化学学会「論文賞」  
**土屋 由佳** (工研 修士1年)  
平成29年度電気化学学会「論文賞」

**佐藤 慧** (工研 修士2年)  
日本化学会 電気化学デバイス化学電池材料研究会 第38回講演会・夏の学校「優秀ポスター賞」

**小林 佑輝** (工研 修士1年)  
日本化学会 電気化学デバイス化学電池材料研究会 第38回講演会・夏の学校「優秀ポスター賞」

**武田 陽** (理工研 修士2年)  
・土木学会 平成28年度全国大会 第71回年次学術講演会「優秀講演者」  
・平成28年度第13回 地盤工学会関東支部発表会(GeoKanto2016)「優秀発表者賞」

**中野 祐樹** (理工研 修士2年)  
第26回 ライフサポート学会 フロンティア講演会「奨励賞」

**長田 慎平** (理工研 修士2年)  
化学工学会 第81年会「本部大会学生賞」

**横澤 琢麻** (理工研 修士1年)  
第52回 熱測定討論会「眉山賞」

**小林 実樹哉** (理工研 修士1年)  
日本生体医工学会関東支部 若手研究者発表会2016「優秀論文発表賞」

**近藤 亮磨** (未研 修士2年)  
第9回 Webとデータベースに関するフォーラム(WebDBフォーラム)「ヤフー賞」

**為谷 翼** (未研 修士2年)  
REAL SIZE THINKING 2016「審査員特別賞(田淵先生賞)」

**吉尾 康平** (未研 修士2年)  
第17回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会「優秀講演賞」

**佐藤 雅也** (未研 修士2年)  
第26回ライフサポート学会 フロンティア講演会「奨励賞」

**吉田 惇** (未研 修士2年)  
FIT2016 第15回情報科学技術フォーラム「FIT奨励賞」

**木村 佳史郎** (未研 修士1年)  
The 10th Asian-Australasian Conference on Composite Materials「The Best Presentation Award」

**柴原 直也** (未研 修士1年)  
情報処理学会 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム「野口賞(技術賞)」

**永井 茅希** (未研 修士1年)  
情報処理学会 第79回全国大会「学生奨励賞」

**森山 柁平** (未研 修士1年)  
情報処理学会 第79回全国大会「学生奨励賞」

**吉田 大** (未研 修士1年)  
・20th International Workshop on Advance Image Technology 2017 (IWAIT2017)「Best Papers Award」  
・映像情報メディア学会 年次大会2016「学生優秀発表賞」

**久保 駿介** (未研 修士1年)  
情報処理学会 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム「ヤングリサーチ賞」

**鈴木 文仁** (未研 修士1年)  
情報処理学会 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム「ヤングリサーチ賞」

**久保 勇暉** (未研 修士2年)  
情報処理学会 第79回全国大会「学生奨励賞」

**沼田 直弥** (未研 修士2年)  
情報処理学会 第79回全国大会「学生奨励賞」

**荒尾 彩子** (未研 修士1年)  
情報処理学会 第79回全国大会「学生奨励賞」

**船田 典孝** (未研 修士1年)  
Internatinal Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP)「Student Paper Award」

**滝 雅史** (未研 修士2年)  
第3回 日経Linux日経ソフトウェア「みんなのラスパイコンテスト2016」「優良賞」

**高橋 洸人** (未研 修士1年)  
第3回 日経Linux日経ソフトウェア「みんなのラスパイコンテスト2016」「優良賞」

**天城 星奈** (未研 修士1年)  
日本e-Learning学会 第19回学術講演会学生セッション「優秀賞」

**飯島 俊輔** (情環研 修士1年)  
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ「HCGシンポジウム2016」  
「学生優秀インタラクティブ発表賞」

**内海 覚** (情環研 修士1年)  
電子情報通信学会 東京支部学生会 第22回研究発表会「東京支部学生奨励賞」

**趙 佗** (情環研 修士1年)  
情報処理学会 第79回全国大会「第78回大会奨励賞」

#### 学部 個人

**武澤 裕介** (工4年)  
映像情報メディア学会 年次大会2016「学生優秀発表賞」

**樋口 栄作** (工4年)  
電気学会東京支部主催 第7回学生研究発表会「優秀発表賞」

**雨宮 将太** (工4年)  
日本生体医工学会関東支部 若手研究者発表会2016「優秀論文発表賞」

**緑川 知輝** (理工4年)  
第61回 低温生物工学会年会「ベストプレゼンテーション賞」

**グエン・ホアンミン** (理工1年)  
東松山市国際交流協会主催「第17回外国人日本語スピーチコンテスト」  
「学生の部 優秀賞」

**三浦 哲史** (未来4年)  
日本人間工学会関東支部 第22回卒業研究発表会「表彰」

**飯岡 俊光** (未来4年)  
電気学会東京支部主催 第7回学生研究発表会「優秀発表賞」

**二瓶 翔太** (未来4年)  
電気学会東京支部主催 第7回学生研究発表会「優秀発表賞」

**野澤 奈央** (未来4年)  
映像表現・芸術科学フォーラム2017(Expressive Japan 2017)「優秀発表賞」

**大石 麻奈斗** (情環4年)  
ICDAMT 2017 国際会議「Best Paper Award」

**渡井 公介** (情環4年)  
電子情報通信学会 東京支部学生会 第22回研究発表会「東京支部学生奨励賞」

#### グループ

**福島 章太** (未研 修士1年)、**野村 敬太** (工4年)、**関根 隆信** (工3年)、**新種 隼人** (未来4年)  
第20回 サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム「第11回 情報危機管理コンテスト グッドセンサー賞」

**雨貝 翔平**、**新田 恭平**、**山口 直哉** (情環4年)  
情報処理学会 ESSロボットチャレンジ2016「総合第2位」

## 研究の取り組みの成果

### 教員等の受賞・表彰

現教員以外の受賞・受賞・表彰も合わせて報告します。

#### 叙勲等受賞

**高 爲重 監事(元理事)** 瑞宝中綬章(秋)  
**金田 輝男 名誉教授(元工学部教授)** 瑞宝中綬章(秋)  
**里見 忠篤 名誉教授(元理工学部教授)** 瑞宝小綬章(秋)

#### 教員

**森田 晋也 教授** (工学部先端機械工学科)  
IOP(英国物理学会出版局)Measurement Science and Technology「Highlights of 2016」

**藪内 直明 准教授** (工学部応用化学科)  
平成29年度電気化学学会「論文賞」

**磯野 春雄 特別専任教授** (理工学研究科 情報学専攻)  
第23回 ディスプレイ国際ワークショップ/アジアディスプレイ2016(IDW/AD'16)「IDW/AW'16 "Outstanding Poster Paper Award"」

**島田 政信 教授** (理工学部建築・都市環境学系)  
「平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞」

**松井 加奈絵 助教** (理工学部情報システムデザイン学系)  
The 3rd International Symposium on Networks,Computers and Communications, IEEE「Best Paper Award」

文部科学省、日本学術振興会 科学研究費補助金の採択状況 <sup>(注)</sup>	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
特定領域研究	0	0	0	0	0
新学術領域	1	0	0	0	0
基盤研究A	2	2	1	0	0
基盤研究B	11	8	5	5	6
基盤研究C	47	55	60	65	68
萌芽研究	7	8	7	9	11
若手研究A	1	1	1	1	1
若手研究B	16	15	18	18	18
特別研究員奨励費	4	3	2	3	2
学術図書	—	1	0	0	0
研究活動スタート支援	1	2	5	4	2
計	90	95	99	105	108

上記以外の公的補助金・助成金の採択状況 <sup>(注)</sup>	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
特定領域研究	5	9	6	12	11

受託研究の受け入れ状況 (継続を含む入金額) <sup>(注)</sup>	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数(件)	36	45	52	56	59
受入額(円)	97,491,352	104,449,083	137,278,342	187,278,959	283,492,930

共同研究の状況 (継続を含む) <sup>(注)</sup>	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数(件)	51	57	74	88	102
受入額(円)	52,543,500	56,070,800	55,599,565	87,477,342	80,857,979

特許申請(保有件数) <sup>(注)</sup>	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
出願件数(件)	13	25	25	18	29
特許取得件数(件)	25	17	10	7	16

研究奨励寄付金の受け入れ状況 (継続を含む)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数(件)	78	60	73	83	73
受入契約額(円)	58,664,782	60,306,724	104,388,782	127,844,280	111,185,716

**鈴木 元哉**、**木村 佳史郎**、**野口 裕司** (未研 修士1年)  
第10回 八光熱の実験コンテスト「記念特別賞」

**高際 修平**、**浅海 太架**、**中島 海斗**、**廣木 梨紗子**、**吉田 伊織**、**江澤 直亮**、**高橋 佑平**、**野口 隼汰** (未来4年)  
第10回 八光熱の実験コンテスト「記念特別賞」

**嶋 優之介**、**山内 一輝** (未来4年)  
木の家設計グランプリ2016「ビルダー賞」

**鈴木 将敏**、**上原 駿**、**永田 智也**、**箕輪 誠**、**川西 勇之介**、**廣田 将大** (理工2年)  
第13回 ACジャパン広告学生賞「テレビCM部門 優秀賞」

#### 卒業生・研究生 他

**野村 佑輔** (H29 工研修了)  
実践教育訓練研究協会「平成28年度優秀実践技術者賞(学生の部)」

**米本 直樹** (H29 工研修了)  
実践教育訓練研究協会「平成28年度優秀実践技術者賞(学生の部)」

**大内 渉** (H29 未卒業)  
せんだいデザインリーグ2017「卒業設計日本一決定戦 特別賞」

**千葉 和樹** (H29 工二卒業)  
実践教育訓練研究協会「平成28年度優秀実践技術者賞(学生の部)」

**山田 祐理 助教** (理工学部理学系)  
日本コンピュータ化学会2016 春季年会「日本コンピュータ化学会 2015年度論文賞」

**二瓶 光希 講師** (未来科学部 建築学科)  
第59回 建築士会全国大会「平成28年度日本建築士会連合会長表彰者」

**岩井 将行 准教授** (未来科学部情報メディア学科)  
情報処理学会 マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2016)シンポジウム「野口賞(技術賞)」

**猪俣 敦夫 教授** (未来科学部情報メディア学科)  
「平成28年度科学研究費助成事業(科研費) 審査委員表彰」

**宮保 憲治 教授** (システムデザイン工学部情報システム工学科)  
・平成28年度科学研究費助成事業(科研費) 審査委員表彰  
・ICDAMT2017 国際会議「Best Paper Award」

**小川 猛志 教授** (システムデザイン工学部情報システム工学科)  
ICDAMT2017 国際会議「Best Paper Award」

**土井根 礼音 助教** (総合研究所)  
ライフサポート学会「ライフサポート学会論文賞」

※所属・学年は受賞当時。  
※先端研＝先端科学技術研究科、工研＝工学研究科、理工研＝理工学研究科、情環研＝情報環境学研究科、未研＝未来科学研究科、工＝工学部、理工＝理工学部、情環＝情報環境学部、未来＝未来科学部、工二＝工学部第二部(夜間)

## 就職実績

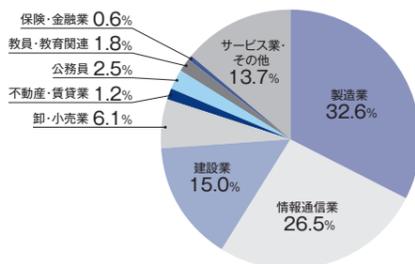
### ●就職内定率

**98.4%**

1,585名希望 1,560名決定 2017年3月卒業生実績

2017年3月卒業、修了生の就職内定実績。民間企業への就職希望者1,585名に対して、1,560名が内定を獲得しました。

### ●産業別就職割合



### ●主要内定実績企業一覧 (2017年3月卒業生実績)

1 三菱電機	13	5 NECフィールディング	9
2 日本電気	11	7 大成建設	8
2 東日本旅客鉄道	11	7 DTS	8
4 パイオニア	10	9 日立オートモティブシステムズ	7
5 東急コミュニティー	9	9 日立製作所	7
11 富士電機	6	10 凸版印刷	5
11 富士通	6	10 富士通ゼネラル	5
11 トヨタ自動車	6	10 東京電力	4
11 関電工	6	10 富士重工業	4
11 NSD	6	10 SMC	4
11 東京エレクトロン	5	10 アズビル	4
		10 小糸製作所	4
		10 ケーヒン	4
		10 日本コムシス	4
		10 高砂熱学工業	4
		21 東海旅客鉄道	3
		21 エヌ・ティ・ティ・データ	3

### ●過去5年間の内定企業実績一覧 (2013年3月~2017年3月卒業生実績)

1 三菱電機	73	5 関電工	27
2 東日本旅客鉄道	44	7 凸版印刷	26
3 日本電気	34	8 東海旅客鉄道	25
4 NECフィールディング	30	9 東急コミュニティー	24
5 大成建設	27	10 パイオニア	23
11 トヨタ自動車	22	10 スズキ	19
11 日立製作所	22	10 大和ハウス工業	19
11 富士電機	22	10 NECソリューションイノベータ	18
14 NSD	20	10 日鉄住金テックスエンジ	18
14 DTS	20	21 東京電力	17
10 富士通	19	21 沖電気工業	17
		22 本田技研工業	16
		22 武蔵野	16
		22 ケーヒン	15
		22 SMC	14
		22 ミットヨ	14
		22 エヌ・ティ・ティ・データ	12

### ●電機会 卒業生が企業等でつづっている支援組織 (2017年3月現在)

様々な企業や業種で、多くの卒業生が活躍しています。同じ企業や職域の卒業生同士が集まり、数多くの「電機会」を組織しています。「電機会」は、学生・生徒はもちろん学園全体を支援しています。

1 教職校友会	1,208	6 東管支部	175	11 京三電機会	74	16 竹中電機会	57
2 東京電機大学技術士会	358	7 関電工電機会	166	12 明電舎電機会	67	17 日本電波工業電機会	54
3 三菱電機会	272	8 沖電気電機会	162	13 商工懇話会	66	17 日立プラント電機会	54
4 民間放送校友会	261	9 大成建設電機会	83	14 東光電気工事電機会	65	19 東管神奈川電機会	46
5 錦央電機会	176	10 鹿島建設電機会	76	15 長谷工電機会	58	20 サクサ電機会	41

※他に多くの電機会があります。

### ●求人数

**14,281社** (前年比6.2%増)

本学の学生一人あたりの求人数は約9社。(全国平均は1.74社:リクルートワークス研究所調べ)

### ●希望企業への内定獲得率

**91.9%**

2017年3月卒業生アンケートで就職内定先企業が、希望順位の第3位までの割合。第1位と回答した学生も62.6%にのびります。

### ●就職先企業の満足度

**96.9%**

2017年3月卒業生アンケートで就職内定先企業を「大変満足」「満足」と答えた学生の割合。

### ●学内企業説明会参加企業数 (2016年3月~2017年3月までに開催)

**576社**

就職活動の時期に電大生のために  
会社説明会を開催する企業数。

### ●卒業生による仕事研究セミナー参加企業数 [キャリア教育行事]

(2017年2月9日開催実績)

**254社**

卒業生が活躍する企業254社が1日に集まり、  
卒業生が親身になって相談のつてくれます。

### ●キャリア支援・就職支援講座 (2016年度)

**140回**

学部1年生から参加できる講座など、  
3キャンパスで毎週1つ以上の講座を開講しています。

IHI、アイシン精機、アスモ、アドバンテスト、アルファシステムズ、アルプス電気、SCS K、NECソリューションイノベータ、NTTアドバンステクノロジ、NTTファシリティーズ、荏原製作所、大林組、沖電気工業、オムロン、オリエンタルモーター、鹿島建設、キヤノン、京三製作所、協和エクシオ、グローリー、KDDI、コナミデジタルエンタテインメント、コニカミノルタジャパン、小糸製作所、三幸製菓、敷島製パン、資生堂、清水建設、ジャトコ、信越化学工業、スズキ、住友理工、住友林業、セイコーエプソン、積水ハウス、大日本印刷、ダイハツ工業、大和ハウス工業、中外製薬工業、TDK、東京地下鉄、東芝機械、東芝テック、東芝メディカルシステムズ、日産自動車、日鉄住金テックスエンジ、日本精工、日本発条、日本光電工業、東日本電信電話、日立アプライアンス、日立システムズ、日立ハイテクノロジーズ、べんてる、ポッシュ、本田技研工業、ミットヨ、三菱ケミカル、ミネベアミツミ、明電舎、メタウォーター、森永乳業、ヤマフ、ヤマザキマザック、ヤンマー、雪印メグミルク、横浜ゴム、吉野工業所、リコージャパン、理想科学工業、ルネサスエレクトロニクス、ローム

IHI、アイシン精機、アズビル、アルパイン、アルファシステムズ、いすゞ自動車、SCSK、NECプラットフォームズ、エヌ・ティ・ティ・データ、NTTファシリティーズ、荏原製作所、大林組、岡村製作所、オリエンタルモーター、オリパス、鹿島建設、キヤノン、京三製作所、京セラ、協和エクシオ、KDDI、KYB、小糸製作所、コニカミノルタ、小糸製作所、山九、JFEスチール、資生堂、清水建設、ジャトコ、セイコーエプソン、積水ハウス、大日本印刷、高砂熱学工業、TDK、東京エレクトロン、東京ガス、東京地下鉄、東芝、東芝エレベータ、東芝機械、東芝メディカルシステムズ、東洋電装、ニチレイフーズ、日産自動車、日本精工、日本発条、日本光電工業、東日本電信電話、日立アプライアンス、日立オートモティブシステムズ、日立産業制御ソリューションズ、日立システムズ、日立ビルシステム、日野自動車、富士重工業、富士通エフアス、富士通ゼネラル、ポッシュ、ミツバ、三菱ケミカル、三菱電機ビルテクノサービス、ミネベアミツミ、明電舎、ヤマフ、ヤマザキマザック、ヤンマー、横浜ゴム、吉野工業所、ヨロズ、ルネサスエレクトロニクス、YKK AP

## 卒業生の活躍

### ■卒業生が現役トップの上場企業 (社長・会長クラス)

※上場企業の代表権のあるトップは11名(全国42位)、役員は68名(全国56位)。

会社名	資本金	従業員(人)	事業内容
アルパイン(株)	259億円	11,908	アルプス電気グループの自動車AVメーカー。OEM中心で海外ブランド力も。
亀田製菓(株)	19億円	3,049	菓子の製造販売。国内米菓市場の約30%を占める。米国、中国など世界に米菓を広げている。
関電工	102億円	8,915	電気・通信・空調・プラントなど電力の安定供給を守る、幅広い分野の設備工事を展開する総合設備企業。
KIホールディングス(株)	92億円	1,599	小糸製作所系列で航空機シート製造および事業持株会社。
駒井ハルテック	66億円	529	鉄骨・橋梁の大手。東京スカイツリーや東京湾アクアライン、超高層ビルなどに実績。
株式会社情報	3億円	425	独立系。高取得率の国際PMPとCMMILレベル5をベースのプロジェクト管理力に強み。
システムズ・デザイン(株)	3.33億円	498	SIとデータ入力、会計ソフトのプレス発送が柱。独立系会計ソフトのPCA創業者が筆頭株主。
シンデン・ハイテックス(株)	9.93億円	130	液晶や半導体などの電子部品販売を主軸とする専門会社。サプライチェーン・マネジメントが強み。
株式会社セコニックホールディングス	16億円	477	露出計ブランドとして有名。事務機器や露出計、監視カメラなど、海外にも子会社展開。
株式会社ソディック	207億円	3,216	放電加工機で世界2位、国内首位。独自技術に強み。
株式会社大気社	64億円	4,892	空調工事業界大手。自動車塗装設備工事で国内首位、世界で2位。東南アジアなど海外展開も。
帝国通信工業(株)	34億円	2,248	可変抵抗器の老舗だがデジタル家電向けの前面操作ブロックが収益柱。アジア市場を開拓中。
テクノロライゾン・ホールディングス(株)	25億円	1,059	タイテックと買収したエルモ社の共同持株会社。電子・光学機器の2本柱、書画カメラが看板。
東海旅客鉄道(株)	1,120億円	28,706	鉄道事業、超電導リニアによる中央新幹線および海外事業展開、駅立地を活かした関連事業。
株式会社ウシシャ	49億円	1,642	ブランド品等を量販店中心に卸売り、PB商品開発も積極推進、小売り支援等サービスも。
東洋電機(株)	10億円	509	電子制御・配電機器メーカー。エレベーター用センサーでは首位級。耐雷変圧器も強み。
株式会社フロン	166億円	4,459	測量やGPS関連が軸。眼底カメラなど眼科用機器は世界有数。
富士ソフト(株)	262億円	11,099	独立系大手ソフト開発。家電や自動車向けの組み込み系ソフトに強み。
不二ラテックス(株)	6.43億円	277	ゴム製品および産業機械向け緩衝器等の製造・販売。
マクニカ・富士エレホールディングス(株)	100億円	2,555	技術力誇る半導体商社。主取引先は大手電機メーカーで通信設備向けICに強み。
株式会社マイスターエンジニアリング	9.81億円	1,800	半導体製造装置などメカトロメントからビル等の施設メンテと管理に軸足。環境分野を開拓。
山加電業(株)	9.89億円	130	送電線・内線工事が主体だが、通信向けも育成。電力は東北電力が主要発電先。建物管理事業も。

### ■卒業生が役員を務めている上場企業

(株)アイ・オー・データ機器 / (株)アパレルデータ / アルパイン(株) / オカモト(株) / カシオ計算機(株) / 兼房(株) / 亀田製菓(株) / 川崎設備工業(株) / (株)関電工 / KIホールディングス(株) / (株)クレスコ / (株)駒井ハルテック / (株)三協フロンテア(株) / (株)システム情報 / システムズ・デザイン(株) / 芝浦メカトロニクス(株) / (株)ジャステック / シンデン・ハイテックス(株) / 新光商事(株) / スタンレー電気(株) / 住友電設(株) / (株)セコニックホールディングス / (株)ソディック / (株)大気社 / (株)高見沢サイバネティクス / (株)タチエス / (株)チノー / 帝国通信工業(株) / (株)DTS / テクニカル電子(株) / テクノロライゾン・ホールディングス(株) / 電気興業(株) / 東海旅客鉄道(株) / (株)東京エネシス / (株)ドウシシャ / 東洋電機(株) / (株)フロン / ナガイレーベン(株) / 中野冷機(株) / 西川計測(株) / 日機装(株) / NKKスイッチズ(株) / 日本金属(株) / 能美防災(株) / (株)ハーモニック・ドライブ・システムズ / (株)福島銀行 / 富士ソフトサービスビューロー(株) / 富士ソフト(株) / 不二ラテックス(株) / 古林紙工(株) / 豊和工業(株) / ホーチキ(株) / ホッカンホールディングス(株) / (株)マイスターエンジニアリング / マクニカ・富士エレホールディングス(株) / マブチモーター(株) / ミサワホーム中国(株) / ミサワホーム(株) / 三井金属エンジニアリング(株) / 山加電業(株) / 油研工業(株) / (株)理経 / 理研計器(株) / (株)りそなホールディングス / リョービ(株)

出典:『東洋経済別冊 役員四季報2017年度版』

### ■卒業生の叙勲等受章者 (平成28年)

「瑞宝小綬章(春)」逸見輝雄 殿	元 特許庁審判部審判長	「旭日双光章(秋)」高橋誠一 殿	公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会連合会副会長
「瑞宝双光章(春)」矢次健志 殿	元 公立高等学校長	「瑞宝双光章(秋)」松浦正一 殿	元 陸上自衛隊札幌駐屯地業務隊総務科長
「旭日小綬章(秋)」山口孝一 殿	元 東京都文京区議会議員	「瑞宝単光章(秋)」山本榮一 殿	元 日本郵政公社職員
「旭日小綬章(秋)」松尾隆徳 殿	東洋電機株式会社代表取締役会長 (寄付賛助員 本法人理事)		

### ■著名な卒業生など

敬称略。ほかに多くの著名な卒業生がいます。

横河 一郎	横河電機(株)の創業者のひとり。大正時代に欧米を視察し、電気計測器の国産化に成功。同社製の実演装置等を保管。同社は工業計器首位。制御機器と計測機器が2本柱。
内田 鐵衛	(株)コロナの創業者。日本初の軽油を燃料とした「加圧式液体燃料コンロ」の開発に成功し実用化。同社は石油暖房機器、空調、温水機器が主力。
高橋 勲次郎	日本電子(株)創業者で電子顕微鏡の実用化に成功。同社は世界最高の分解能を誇る電子顕微鏡で、世界シェアが高い。
福田 孝	フクダ電子(株)の創業者。国産心電計の開発に成功。同社は医用電子機器メーカーとして循環器系に強く、心電計でトップ。千葉ニュータウンキャンパス福田記念国際交流センターを寄贈。
梶尾 俊雄	カシオ計算機(株)創業の梶尾4兄弟のひとり。世界初の小型純電気式計算機「14-A」、電卓、時計、電子楽器など発明品は多数。同社は電波時計、電子辞書で高シェア。東京千住キャンパスに同氏を顕彰したカシオホールがある。(※本学名誉博士)
手島 透	自動車載の液相式高輝度赤色LEDを開発・実用化し、LED産業発展の基礎を築く。スタンレー電気(株)技術研究所長、代表取締役を歴任。紫綬褒章受章。(※本学名誉博士)
ズハール	インドネシア共和国国家イノベーション委員会会長。アレアズハレインドネシア大学学長を経て、インドネシア政府要職を歴任。旭日重光章受章。(※本学名誉博士)
新田 次郎	直木賞作家、気象学者。気象庁に勤務しながら本学を卒業。「強力伝」で直木賞。自らの体験に根ざした「富士山頂」や「聖職の碑」などの山岳小説で有名。紫綬褒章受章。
熊谷 達也	直木賞作家。東北や北海道の民俗、文化、風土に根ざした小説「邂逅の森」で、山本周五郎賞と直木賞をダブル受賞。「漂泊の牙」で新田次郎文学賞。
円谷 英二	特殊映画監督。元円谷プロダクション社長。ウルトラマンやゴジラなど、昭和の特殊撮影技術の第一人者で、特撮の神様と称される。(電機学校在籍)
飯島 勲	元小糸純一郎内閣総理大臣秘書官。衆議院議員公設秘書、各大臣の秘書官、内閣官房参与等を歴任。

## 社会に貢献する東京電機大学



### ●丹羽保次郎記念論文賞

初代学長で日本の十大発明家に数えられる故丹羽保次郎博士の電気通信技術に対する功績を記念し、大学院生等を対象に昭和52年に設立されました。平成28年度は11件の推薦応募があり、審査の結果、次の2名の方が受賞されました。(所属等は受賞時)

**近藤 圭祐氏** (横浜国立大学大学院工学府工学研究院博士研究員)  
受賞対象論文「Temporal pulse compression by dynamic slow-light tuning in photonic crystal waveguides」

**徐 祖楽氏** (東京理科大学助教)  
受賞対象論文「A 3.6 GHz Low-Noise Fractional-N Digital PLL Using SAR-ADC-Based TDC」

### 学校法人東京電機大学学術振興基金 各賞受賞者

この基金は、本学園の研究機関および研究者等を援助するために設け、特色ある新分野を拓く学術研究および学術研究の国際交流等を奨励し、学術の向上発展に寄与することを目的としています。(平成28年度の受賞者、所属等は受賞時)

**教育賞** 代表者：山本 圭介 教授・松下 希和 准教授 (未来科学部建築学科)  
標 題：大連理工大学との国際交流建築ワークショップ

**教育奨励賞** 代表者：ヨーク・ジェームズ 助教 (理工学部 共通教育群)  
標 題：英語コミュニケーション能力と学生中心指導の推進：ボードゲームを用いた教授法の予備実験と学生への影響について

**発 明 賞** 【教員・嘱託部門】射場本 忠彦 教授・百田 真史 准教授 (未来科学部建築学科)  
発明の名称「氷蓄熱装置」

【学生部門】小野 菜 氏 (工学研究科修士課程 物質工学専攻 2年)  
発明の名称「塩基性色調変化型pH指示用モノマー及びpH指示用共重合体」及び「広範囲pH指示用共重合体及びその合成方法」

**論 文 賞** 並川 健一 助教 (工学部数学系列)  
論文名「On a congruence prime criterion for cusp forms on GL2 over number fields」

### マスコミで注目された教職員

**安田 進** 理工学部建築・都市環境学系教授：「地震発生時における液状化」についてテレビや新聞で解説やコメント。

**佐々木 良一** 未来科学部情報メディア学科教授：「サイバー攻撃」「デジタル遺品」対策等について新聞で解説やコメント、また啓発活動に尽力。

**加藤 政一** 工学部電気電子工学科教授：都内で発生した大規模停電についてテレビで解説やコメント。東電事故検証委員会メンバーに参加。

**藪内 直明** 工学部応用化学科准教授：リチウムイオン蓄電池の高容量化実現につながる正極材料の発見について、新聞や専門誌でコメント。

### 本学で開催された著名人の講演会 (カッコ内は開催日と主催部署等)

**末木 孝幸氏** (三菱電機 社友) 「努力は運を支配する」(5/10：経営同友会)

**川口 淳一郎氏** (元「はやぶさ」プロジェクトマネージャ、JAXA 宇宙航空研究開発機構シニアフェロー、宇宙科学研究所宇宙飛行工学研究系教授) 「ミッション 小惑星探査機「はやぶさ」～やれる理由こそが着想を生む。「はやぶさ式思考法」～」(5/21：校友会)

**山本 正巳氏** (富士通株式会社 代表取締役会長) 「IoTがもたらす豊かな未来に向けて」(12/1：経営同友会)

**的川 泰宣氏** (JAXA宇宙航空研究開発機構 名誉教授) 「はやぶさからHatoyamamachiへのメッセージ」(3/4：ここから武蔵コンソーシアム)

### 東京電機大学出版局

教科書、技術書、学術書、啓発書や文部科学省教科書など多くの出版物を刊行し、社会から高い評価を得ています。平成28年度は『デジタルアポロ』『実験で学ぶメカトロニクス』『デジタル・フォレンジックの基礎と実践』『Libre officeで学ぶ情報リテラシー』『理工系のための一般化学』など36点の新刊書籍、重版44点を刊行しました。

### ●教育の公開

教育の公開や社会貢献などを行っています。(カッコ内は開催日と主催部署等)

#### 講演会、公開講座等から

「第40回 ME (医用生体工学) 公開講座」(産官学交流センター)

「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」(CySec事務局)

「低分子化合物とタンパク質の情報解析」(7/30：理工学部)

その他、各キャンパスで子ども向け各種講座を開催しました。

「第19回 オーケストラを楽しもう!」開催 (9/17：理工学部)

「電大建築の実学 ～歴史と“今”が織りなす北千住の未来像～ 公開講習会とワークショップ」(1/12：未来科学部)

### ●大学発ベンチャー紹介

(教職員が役員企業、平成29年4月現在)

会社名	概要	会社名	概要
ネプラス(株)	設立年月：平成12年5月 業 務 概 要：高速高精度3次元位置測定システム等の開発、販売等 代表取締役：新澤 靖 教授 (システムデザイン工学部 本学関係者：情報システム工学科)	(株)映創初演	設立年月：平成21年9月 業 務 概 要：情報処理・画像処理に関するソフトウェアとハードウェアの研究・開発および販売 本学関係者：代表取締役：安田 浩 教授

### ●産官学連携に関する交流会

**東京電機大学 経営同友会**  
大学ならびに校友会の協力・連携の下に産学協同のネットワークとして平成13年に発足。現在の正会員数は100名を超えています。

**TDU産学交流会(埼玉鳩山キャンパス)**  
埼玉県内の企業と理工学部との交流会として平成2年に発足。現在の会員は23社です。

**TDUいんざいイノベーション推進センター(TIIAC)交流会(千葉ニュータウンキャンパス)**  
キャンパス内にオフィスを設け、情報環境学部との交流で地域活性化を目指しています。

### ●地域連携活動に関する施設

#### 創業支援施設「かけはし」

東京千住アネックスにて、足立区から補助を受けて、創業支援施設「かけはし」を平成23年12月から運営しています。インキュベーションオフィス14室とシェアードオフィス12ブースがあります。旧足立区立の中学校を利活用した事業として注目されています。

## 学生活躍

### 学生の活躍・団体イベント(所属等は受賞当時)

**ラリードライバー 新井大輝さんが全日本選手権にて活躍**  
ラリードライバーとして活躍する新井大輝さん(機械工学科4年)が全日本ラリー選手権「M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ2016」及び「新城ラリー2016」JN5クラスにて優勝。なお、トヨタ自動車による若手ドライバー育成プログラム、「ラリーチャレンジプログラム」にも選出されています。

**日本ボウリング協会ナショナルチーム 八鍬良太さんが国際大会で銀メダル**  
工学部第二部ボウリング部の八鍬良太さん(電気電子工学科2年)が、アメリカ・ネブラスカ州リンカーンで開催された「第14回世界ユースボウリング選手権大会」の男子チーム戦において、銀メダルを獲得しました。また、同大会シングルス戦においては、12位の好成績を収めました。

**日本ライフル射撃協会指定選手 江口昌幸さんが全国大会で入賞**  
江口昌幸さん(情報通信工学科1年)が能勢町国体記念スポーツセンターで開催された「第3回全国学生・生徒エアピストル射撃競技大会」において、第8位に入賞しました。

**アマチュア無線部が各コンテストにて好成績**  
東京千住キャンパスのアマチュア無線部が参加した日本アマチュア無線連盟主催の「第59回フィールドデーコンテスト」において4位、「第37回全市全部コンテスト」において第2位の好成績を収めました。

**硬式野球部が東京新大学野球連盟四部春季リーグで優勝**  
東京新大学野球連盟四部春季リーグ最終戦において、本学硬式野球部が四部リーグ優勝を果たしました。また、6月に東京農工大学との入替戦に挑んで勝利し、三部リーグへの昇格が決まりました。

**空手部が春季関東学生会定期リーグ戦団体二部リーグで準優勝**  
平成28年度春季関東学生会定期リーグ戦において、本学空手部が団体二部リーグ準優勝の活躍を収めました。

**バドミントン部 春季リーグ戦6部優勝 5部へ昇格**  
2016年度 関東大学バドミントン春季リーグ戦において、男子バドミントン部が6部にて優勝し、5部への昇格が決まりました。

**柔道部が全日本理工科学生柔道優勝大会 二段の部で活躍**  
「第57回全日本理工科学生柔道優勝大会」において、勝間田喜章さん(建築・都市環境学系1年)が準優勝、楠幸弥さん(理学系3年)が3位と好成績を収めました。

**ヒューマノイド研究部が国内外大会で大活躍**  
北川貴大さん(電子・機械工学系3年)、小田耀仁さん(電子・機械工学系2年)、高橋瞭さん(電子・機械工学系2年)のチームが「IEEE中南米ロボットコンテスト」で準優勝しました。国内大会においては北川貴大さんが「第20回KONDO BATTLE」で準優勝、「早稲田理工展ロボットフェスティバル」で3位、「ROBOT GENERATION 10 in 中央大学」にて1位 小田耀仁さん、2位 桑原魁さん(電子・機械工学系3年)、3位 須田誠さん(電子・機械工学系1年)と上位を独占、また、小田耀仁さんが「ROBOT JAPAN 13th」で優勝と各大会で活躍しました。

**フォーミュラSAEプロジェクトが「Formula SAE Australasia2016」に出場**  
埼玉鳩山キャンパスのフォーミュラSAEプロジェクトが12/8~11にオーストラリア・メルボルン郊外に位置するサーキット、Calder Park Racewayで開催された「Formula SAE Australasia2016」に出場。過去最多の32チームが参加するなか、去年より5位順位を上げ16位、コストイベントで4位を収めるなど健闘しました。

### 団体活動やイベントへの参加

**音楽系学生団体による合同演奏会「SENJAZZ(センジャズ)2016」開催**  
12/4に東京千住キャンパス丹羽ホールにて、東京千住キャンパス音楽系学生団体(グリークラブ、吹奏楽同好会、モダンジャズ研究会、ギターアンサンブル部、コーズトジャズオーケストラ)による合同演奏会「SENJAZZ(センジャズ)2016」が開催されました。

**「SECCON 2016 決勝大会」を開催**  
東京千住キャンパスで開催されたセキュリティコンテスト「SECCON 2016 決勝大会」の様子が、各種メディアで紹介されました。世界99カ国、累計4,956人から勝ち進んだ24チームが一堂に集まり実力を競い合いました。(1/27~29)

**「サイバーセキュリティシンポジウム2017 in TDU」を開催**  
3/14に東京千住キャンパスにて、サイバーセキュリティにおける本学の最新の研究成果等を発表・報告する「サイバーセキュリティシンポジウム2017 in TDU」を開催しました。現在取り組んでいる最新の研究成果の発表、具体的なサイバーセキュリティ対応の状況を報告しました。

**グリークラブが「男声合唱アカペラコンサート」開催**  
学生団体グリークラブが、8/27福島県いわき市の草野心平記念文学館にて「男声合唱コンサート」を開催しました。校歌を作詩した文化勲章受章者でもある草野心平を偲ぶとともに、子供からお年寄りまで楽しく草野心平の作品に親しんでもらいました。

**地球環境フェア2016に出展**  
足立区主催の地球環境フェア2016にて、工学部環境化学科とCRC地域連携担当が「こどもサイエンズラボ」を出展しました。小学生を対象にした「こどもサイエンズラボ」にはたくさんの親子づれが参加され、実験を楽しみながら環境について考えていただきました。(5/28-5/29)

**電大ガールズが電子工作教室を開催**  
本学女子学生による団体、電大ガールズが、子どもたちに科学や技術への関心を高めてもらうためのイベント、「電大ガールズpresents ヒカッとキラッと電子工作」を本年も開催。多くの子どもたちが参加しました。(8/1-8/2)

**東京電機大学後援会(在校生父母の会)**  
在学生の保証人の方々などを会員とする組織で、保証人の方々や大学との意思疎通を図る役割を担い、会員・学生のために様々な事業を展開しています。会誌「学苑」の発行のほか、各キャンパスおよび全国10会場で父母懇談会を開催、「父母のための東京電機大学ガイド」の発行、メールマガジンの配信等を行っています。また、学生のクラブ、学園祭、体育祭への補助を行っています。平成28年度の父母懇談会には1,664組、2,430名(キャンパス会場1,352組1,950名、地方会場312組480名)のご父母の皆さまにご参加頂きました。

## 中学校・高等学校の取り組み

### ●東京電機大学中学校・高等学校の校訓

# 人間らしく生きる

τό ἀνθρωπίνως ξὴν μανθάνομεν.  
～人間らしく生きることを学ぶ～

**中学校の教育方針** 生徒と教員の信頼関係を大切にしながら、自主性や社会性、学習への積極的な姿勢を育み、6年後の大きな飛躍へと導く。  
 中学1年：生活・学習両面の自主性を高める  
 中学2年：自立した学習法を習慣化する  
 中学3年：将来の目標を定めるきっかけをつかむ

### ●志願者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
中学校	1,306	1,155	1,096	988	913
高等学校	440	381	393	335	458
合計	1,746	1,536	1,489	1,323	1,371

### ●進路（高等学校 教育の取り組みの成果）

ほぼ全員が進学希望。2017年度卒業生現役進学率：74.0% 東京電機大学への2017年度入試 卒業生内部推薦：7.1%

### 平成29年度入試 主な大学入試合格状況（現役生の延べ人数。平成29年4月4日現在）

**国公立大学** 東京大学1名、東京外国語大学1名、東京農工大学1名、電気通信大学3名、横浜国立大学1名、北海道大学1名、岩手大学1名、秋田大学1名、秋田県立大学1名、新潟大学1名、新潟県立大学1名、信州大学1名、都留文科大学2名、茨城大学2名、山口大学2名、大分大学1名、防衛大学校1名、防衛医科大学校1名

**私立大学** 早稲田大学7名、慶應義塾大学3名、上智大学4名、東京理科大学12名、学習院大学1名、明治大学15名、青山学院大学4名、立教大学7名、中央大学18名、法政大学17名、成蹊大学8名、成城大学2名、明治学院大学1名、武蔵大学5名、日本大学30名、東洋大学16名、駒澤大学6名、専修大学2名、芝浦工業大学22名、工学院大学8名、東京都市大学11名、北里大学6名、杏林大学10名、國學院大学2名、東京農業大学9名、東京薬科大学4名、明治薬科大学2名、学習院女子大学1名、昭和女子大学2名、津田塾大学2名、日本女子大学3名 など

**東京電機大学** [ 学内推薦 18名 ] (昨年度16名) システムデザイン工学部5名、未来科学部4名、工学部6名、理工学部1名、工学部第二部2名 [ 一般受験合格者 25名 ] (昨年度26名)

### ●中学校の受賞・成績

- 日本私立中学高等学校連合会賞
- (公益財)東京都体育協会並びに東京都中学校体育連盟賞
- 放送部：第33回NHK杯全国中学校放送コンテストテレビ番組部門 優良賞 第37回東京都中学校放送コンテスト学校奨励賞テレビ番組部門 第3位
- 卓球部：第64回東京私立中学高等学校卓球選手権大会 優勝
- 野球部：第68回小金井市民体育祭軟式野球大会 第3位
- バスケットボール部：第68回小金井市民体育祭バスケットボール大会女子の部 準優勝 小金井市春季バスケットボール大会男子の部 準優勝、1年生男子の部 優勝、1年生女子の部 第3位
- テニス部：第11回小金井市中学校テニス大会団体の部 第5位
- バドミントン部：第68回小金井市民体育祭中学男子シングルス 優勝・準優勝・3位、中学校男子ダブルスで優勝・準優勝
- 全国納税貯蓄組合連合会主催第50回「中学生の税についての作文」武蔵野法人会会長賞、武蔵野納税貯蓄組合総連合会優秀賞
- 第27回伊藤園「お〜いお茶」新俳句大賞 佳作
- 第44回東京私立中学高等学校協会「写真・美術展」美術の部 特選、入選
- はたらく消防の写生会未来消防の部 優秀賞、入選
- 第22回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 神戸新聞社賞、新温泉町長賞、新温泉町教育長賞、佳作
- First Lego League Asian Pacific Open Championship 2016 優勝
- こころの東京革命協会主催「中学生の主張」についての作文 会長特別賞

### ●教育目標

生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性と高い知性と強靱な体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。「豊かな心・創造力と知性・健やかな身体」をそなえた人を育てることが、本校の目標です。

**高等学校の教育方針** 大学入試に対応できる学力をつけるだけではなく、さまざまな職業に対する知識を深めることで生徒の希望する進路へと導く。  
 高校1年：現実的な視点に基づく進路選択眼を養う  
 高校2年：進路目標を学習意欲に結びつける  
 高校3年：目標達成に向けて全力で取り組む

### ●進路状況

高等学校	進学	就職	その他
普通科 (254人)	27人	158人	3人
中学校 (171人)	160人	11人	

### ●高等学校の受賞・成績

- 東京都知事賞
- 日本私立中学高等学校連合会賞
- (公益財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- 東京都高等学校文化連盟賞
- 東京都高等学校野球連盟賞
- 東京都高等学校吹奏楽連盟理事長賞
- 放送部：第63回NHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会ラジオドキュメント部門 第4位で全国大会出場
- 鉄道研究部：第8回全国高等学校鉄道模型コンテスト【中高共通】1量レイアウト部門で加藤祐治賞
- 柔道部：第65回全国高校総体柔道競技大会東京都第四支部予選大会男子団体の部 第5位 第65回全国高校総体柔道競技大会東京都第四支部予選大会男子100kg超級 第5位 上記により都大会出場
- 剣道部：第51回小金井市剣道選手権大会男子学生二段の部 準優勝 女子二段以下の部 第3位
- バドミントン部：第100回記念小金井市バドミントン連盟大会男子ダブルス 3位
- 女子バレー部：第13回朝陽カップバレーボール大会 優勝
- 硬式テニス部：第36回有明チャンピオンシップジュニアテニス大会男子ダブルス16歳以下の部 第3位 男子ダブルス18歳以下の部 第3位
- 第44回東京私立中学高等学校協会「写真・美術展」入選
- JAPAN DANCE DELIGHT VOL.23東京大会Aブロック第3位で全国大会出場
- 第55回全国俳句大会ジュニアの部 入選
- 第22回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 準前田純孝賞、佳作

## データ集

### ●資産

キャンパス総面積	699,147.11㎡
東京千住キャンパス	26,221.39㎡
東京神田キャンパス	481.70㎡
埼玉鳩山キャンパス	348,469.68㎡
千葉ニュータウンキャンパス	205,058.00㎡
東京小金井キャンパス	22,023.48㎡
東京千住キャンパス千住東グラウンド	7,918.86㎡
平岡総合グラウンド	88,974.00㎡
図書蔵書数	211,442冊
学生用図書	194,662冊
研究用図書	16,780冊
雑誌	2,089タイトル
電子ジャーナル	約7,470タイトル
電子ブック	約49,000タイトル
コンピュータ台数	
ネットワーク接続	約8,700台

### ●学生数(人)

大学	10,010 (1,231)	( ) 内は女性数で内数
大学院		
先端科学技術研究科	博士：42 (4)	
工学研究科	修士：318 (28)	
理工学研究科	修士：224 (30)	
情報環境学研究科	修士：48 (3)	
未来科学研究科	修士：277 (36)	
工学部(工学部第一部を含む)	2,926 (207)	
工学部第二部	717 (57)	
未来科学部	1,575 (333)	
システムデザイン工学部	281 (49)	
理工学部	2,750 (375)	
情報環境学部	852 (109)	
高等学校	752 (238)	
中学校	507 (148)	

### ●定員(人)

大学院	入学定員	収容定員
大学院先端科学技術研究科(博士)	32	96
大学院工学研究科(修士)	170	340
大学院理工学研究科(修士)	122	244
大学院情報環境学研究科(修士)	40	80
大学院未来科学研究科(修士)	145	290
学部		
工学部		
電気電子工学科	120	480
電子システム工学科	90	360
応用化学科	80	320
機械工学科	110	440
先端機械工学科	100	400
情報通信工学科	110	440
工学部第二部		
電気電子工学科	50	210
機械工学科	50	210
情報通信工学科	50	210
*編入学定員各学科 2年次(2)、3年次(2)		
理工学部		
理工学科	600	2,400
未来科学部		
建築学科	130	520
情報メディア学科	110	440
ロボット・メカトロニクス学科	110	440
システムデザイン工学部		
情報システム工学科	130	520
デザイン工学科	110	440
高等学校	250	750
中学校	150	450

### ●卒業生数

216,888人

### ●関連機関

一般社団法人東京電機大学校友会 東京電機大学後援会 (平成29年5月1日現在)

### ●修了者・卒業生数(平成28年度)

		昼	夜	合計
大学	先端科学技術研究科 博士課程(後期)	4	—	4
	工学研究科 修士課程	139 ※(1)	—	139
	理工学研究科 修士課程	83 ※(2)	—	83
	情報環境学研究科 修士課程	29 ※(3)	—	29
	未来科学研究科 修士課程	150 ※(4)	—	150
学部	工学部	617 ※(5)	—	617
	工学部第二部	—	128 ※(6)	128
	理工学部	617 ※(7)	—	617
	情報環境学部	229 ※(8)	—	229
	未来科学部	347 ※(9)	—	347
高等学校	254	—	254	
中学校	171	—	171	
合計	2,640	128	2,768	

※(1)1.5年の修学による早期卒業生1人を含む。 ※(2)9月修了者2人を含む。  
 ※(3)8月修了者3人を含む。 ※(4)9月修了者2人を含む。  
 ※(5)9月卒業生3人、3年の修学による早期卒業生1人を含む。  
 ※(6)9月卒業生10人を含む。  
 ※(7)9月卒業生3人、3.5年の修学による早期卒業生1人、3年の修学による早期卒業生1人を含む。  
 ※(8)8月卒業生10人を含む。 ※(9)9月卒業生2人を含む。

### ●役員・従事員数(平成29年5月1日現在)

役員等	理事	監事	評議員	顧問	学資	参与
	15	2	47	3	19	40

### 専従者

	教員	教育	任期付	特別専	事務	事務	技術	技術	計
	職員	嘱託	教員	任教授	職員	嘱託	職員	嘱託	
法人	0	0	0	0	35	0	1	0	36
大学	202	75	82	11	107	7	10	1	495
高等学校	33	6	0	0	4	0	0	0	43
中学校	25	0	0	0	3	0	0	0	28
小計	260	81	82	11	149	7	11	1	602
事業本部	0	0	0	1	10	0	0	0	11
校友会	0	0	0	0	3	1	0	0	4
合計	260	81	82	12	162	8	11	1	617

### 学生職員・補助職員

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
学生職員	0	63	0	0	0	63
補助職員	5	88	8	6	1	108
合計	5	151	8	6	1	171

### 外来教員

	大学	高校	中学	計
非常勤教員	564	29	26	619

### 業務委託・人材派遣

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
業務委託・人材派遣	16	71	3	7	3	100

### 入試コーディネーター等労働契約者

	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
週5日以上勤務者	1	9	0	4	0	14

## データ集

### ●学生募集状況

学部	平成27年度	平成28年度	平成29年度
システムデザイン工学部			4,139
未来科学部	4,674	5,180	4,746
工学部	9,019	8,487	9,086
理工学部	5,377	5,258	4,611
情報環境学部	2,421	2,347	
工学部第二部	788	684	672
合計	22,279	21,956	23,254

学部	平成27年度	平成28年度	平成29年度
先端科学技術研究科	12	15	10
未来科学研究科	178	154	150
工学研究科	160	199	161
理工学研究科	122	137	124
情報環境学研究科	31	28	26
合計	503	533	471

※平成27年度/平成28年度には9月入試志願者数を含む。

### ●進路状況 (平成28年度修了者・卒業者)

- 大学
- (1) 求人申込企業数 ..... 14,281社
  - (2) 求人数 ..... 181,081人
  - (3) 就職希望登録者および決定者数

内訳		登録者数	決定者数	内定率
大学院	工学研究科 修士課程	130人	130人	100.0%
	理工学研究科 修士課程	73人	71人	97.3%
	情報環境学研究科 修士課程	25人	25人	100.0%
	未来科学研究科 修士課程	145人	145人	100.0%
学部	工学部	445人	430人	96.6%
	工学部第二部	90人	81人	90.0%
	理工学部	465人	452人	97.2%
	情報環境学部	185人	177人	95.7%
	未来科学部	200人	194人	97.0%
合計	1,758人	1,705人	97.0%	

- (4) 規模別就職者数
- 大企業 (資本金10億円以上) ..... 765人
  - 中企業 (資本金1億円~10億円未満) ..... 457人
  - 小企業 (資本金1億円未満) ..... 409人
  - その他 (公務員、教員等) ..... 74人

学部	人数
工学部	140人
工学部第二部	3人
理工学部	107人
情報環境学部	19人
未来科学部	132人
他大学院進学者	7人
工学部第二部	0人
理工学部	13人
情報環境学部	1人
未来科学部	2人

※上記には、早期卒業による本学大学院進学者、工学部1人、理工学部1人 合計2人を含む。

### ●寄付状況 (平成28年度学校法人東京電機大学サポート募金) [期間 平成28年4月1日~平成29年3月31日]

使途指定	在校生ご父母	卒業生(関係団体含む)	役員・教職員(元教職員含む)	法人	一般賛同者	合計
奨学金	19件	44件	20件	2件	1件	86件
施設・設備	312,000円	4,098,000円	1,445,000円	120,000円	44,152円	6,019,152円
	212件	40件	30件	13件	3件	298件
課外活動	5,245,124円	2,010,000円	2,450,000円	1,890,000円	520,000円	12,115,124円
	140件	20件	15件	2件	3件	180件
創立110周年記念事業募金	1,950,000円	614,000円	1,895,000円	330,000円	160,000円	4,949,000円
	47件	76件	41件	28件	2件	194件
指定なし	741,000円	11,920,000円	13,260,000円	47,490,000円	40,000円	73,451,000円
	91件	60件	42件	6件	1件	200件
合計	2,040,000円	1,568,000円	3,040,000円	560,000円	2,000円	7,210,000円
	509件	240件	148件	51件	10件	958件
	10,288,124円	20,210,000円	22,090,000円	50,390,000円	766,152円	103,744,276円

## その他インフォメーション

### 学術資料

#### ●クラーク文庫：エジソンの共同研究者の特別集書

アメリカの電気工学者、チャールズ・クラークが所蔵していました。クラークはエジソンの共同研究者で、電気技術の発展に大いに貢献しました。19~20世紀の電気学、物理学、工学など科学技術に関する約500点で構成され、古典とされるアンペール、ファラデー、ヘルツ、オーム等の初版本も含まれています。

#### ●科学技術と本文庫

江戸から明治時代前半の科学・技術の文献約200点を収集したもので、わが国でも数少ない和本科レクションです。大半は木版印刷による和綴書ですが、毛筆書きの写本や書簡も含まれます。鎖国体制下に始まる蘭学の時代から明治の文明開化に至るまでの、日本の科学・技術の流れをたどることができる貴重な資料です。



#### ●山岡文庫

山岡望 (1892(明治25)~1978(昭和53)年)は、わが国の化学教育と化学史研究の草分け的存在です。山岡文庫は、氏が生前に収集した文庫類約280点を集めたもので、洋書や雑誌類も数多く含まれています。単に図書としてでなく、歴史に残る化学教育者・化学史家が使用した文献という意味でも、貴重な歴史資産です。

### 貴重資料

#### ●エジソン蓄音機

音を出し入れできる器械の出現の夢を、1877年に遂にエジソンが達成。日本には2年後の1879(明治12)年に紹介されました。(本学展示は、「トリアンプ Model Cand D 形式」の蓄音機)



#### ●エジソンダイナモ

エジソン形直流発電機は、エジソンが1879年に発明し、自らエジソン社を創立、この機械を製造しました。現存しているのは本学その他、東京大学、東京国立博物館、東京理科大学と3台あり、しかも発電可能なものは本学の1台のみで、歴史的にも貴重なものです。



#### ●その他

他に本学創立期の実演教育に活用された、直流電位差計、P.O.箱(Post-Office-Box)、昭和初期の五球再生式ラジオ、昭和30年代の電動式モノロー計算機、日本初の「日本語ワードプロセッサ」も理工学部にて展示しています。

## 学校法人東京電機大学サポート募金

「学校法人東京電機大学サポート募金」は、各キャンパスでの事業や学生・生徒活動などのさらなる推進をご支援いただくことを目的に、寄付の使途を指定いただける募金として2013(平成25)年にスタート致しました。(研究に関しては研究活動奨励寄付金としてお受けいたしております) なお、2015(平成27)年から創立110周年記念事業募金を使途に加え募金活動を行っております。皆様方のご支援・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

●ネーミングライツご紹介：寄付者の名前を冠した施設 カシオホール、神山記念ラウンジ、井上記念学生ラウンジ、松本記念学習ホール、福田記念セミナー室

●座席にお名前を顕彰：学園のメインホール東京千住キャンパス1号館2階丹羽ホールに累計100万円以上の募金を頂いた方のお名前を顕彰いたしております。



### 大学校章

1939(昭和14)年3月の高等工業学校設置時に、「近代文明の根幹をなす電機工業の源泉たる電気現象を表現するとともに、さらにこれを通じて生々無息なる宇宙造化を意味するものなり」として、稲妻をモチーフにした図案が制定されました。その後、1949(昭和24)年の大学開設に際して、その図案と文字を組み合わせ、東京電機大学の校章として制定されました。



### ロゴ・マーク

大学開設以来の工学部に加え、1977(昭和52)年には理工学部を設置し、東京電機大学は単科大学から理工系総合大学になりました。英文名称もそれまでの Tokyo Electrical Engineering College (TEEC) から、Tokyo Denki University (TDU) に変更しました。1984(昭和59)年、創立75周年記念事業として、神田のキャンパスに17階建ての11号館を建設する際、外壁に大学名と「TDU」を表示することになり、この3文字がデザインされました。「TDU」は校舎や各種広報物などに使用されています。



### 学園公認徽章

スクールカラーの紺青をベースとし大学校章の通称稲妻マークを中央、TDUを上部、校名を下部に配置。教職員、在校生、卒業生等が着用しています。(平成21年7月制定)



### 大学エンブレム

学園公認徽章を踏まえ、愛校心涵養や国際交流など格式を重んじる場面等で活用されるエンブレムをデザインし制定しました。(平成23年5月制定)

